

文 教 委 員 会 資 料

所管事務の調査（報告）

市立高等学校改革等に関する検討状況について

資 料 市立高等学校改革等に関する検討状況について

令和 8 年 5 月 2 8 日
教 育 委 員 会 事 務 局

市立高等学校改革等に関する 検討状況について

令和 8 年 5 月
教育委員会事務局
学 校 教 育 部

はじめに……………P4

はじめに……………P4

(参考)市立高等学校改革推進計画第2次計画の検証結果…P5

今後の検討ステップ……………P6

市立高等学校に関する計画体系図……………P7

市立高等学校の現状……………P8

市立高等学校の変遷……………P9

市立高等学校一覧……………P10

現在のスクール・ミッション……………P11

入学者選抜等の状況……………P14

特別な支援を要する生徒等の状況……………P15

卒業生の進路状況……………P16

市立高等学校の年間費用……………P17

生徒へのアンケート結果……………P19

(参考)市立高等学校の特色等……………P26

市立高等学校を取り巻く環境変化……………P28

市内中学校卒業生の長期的推計結果……………P29

外国人住民及び生徒の推移……………P30

高等学校の授業料無償化……………P31

神奈川県立高等学校における再編・統合等……………P33

企業からのヒアリング結果……………P34

実施概要……………P35

今後求められる能力(人材)について……………P36

学校教育への期待について……………P41

今後重視すべき方向性……………P45

川崎市の特性(産業集積、多様性等)を生かして育成すべき人材像…P46

今後重視すべき方向性……………P53

(参考)神奈川県での定員目標設定スキームなど……………P54

(参考)川崎市内の県立・私立高等学校……………P55

今後の進め方……………P56

計画策定に向けた今後の取組……………P57

(参考)探究的な学びの更なる充実に向けた試行的な取組……………P58

- 令和6年度に「市立高等学校改革推進計画第2次計画」の検証を行い、
 - ・魅力化・特色化に取り組み、生徒から“選ばれる”高等学校づくり
 - ・多様な学び方から、生徒が学びを“選べる”高等学校づくり
 - ・適正な配置及び規模の検討、併せて目標耐用年数経過への対応検討について、今後検討を進めていくこととした。
- 現在川崎市は市立高等学校を5校設置しているが、授業料無償化を始め市立高等学校を取り巻く環境は大きく変化しており、また、学校教育法では高等学校の設置義務者に関する規定は定められていない。

学校教育法(昭和22年法律第26号)における学校設置者及び高等学校の位置付け

第2条 学校は、**国**(国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構を含む)、**地方公共団体**(公立大学法人を含む。) **設置義務なし**
及び私立学校法第三条に規定する**学校法人**のみが、これを**設置**することができる。

第50条 高等学校は、**中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施す**ことを目的とする。

- そのような中、第2次計画の検証における検討課題について、川崎市が市立高等学校を設置する意義を改めて問い直し、既存5校の延長線上ではなく、今後のあるべき姿から検討を行うこととした。

今後の検討の方向性 & スケジュール

検証結果から→ 4 つの課題

- ① 教科等横断的な学びの強化の必要性
- ② 中高一貫教育の見直しの必要性
- ③ 専門学科の定員割れへの対応の必要性
- ④ 教育二ーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性

計画策定以降に顕在化した課題

- A) 少子化の進行
- B) 市外流出増加及び通信制課程進学者の増加
- C) 高津高等学校校舎の目標耐用年数経過

①&② ③&④&A&B C の3つに集約化

今後検討すべき 3 つの方向性

● “選ばれる”高等学校づくりと少子化に伴う定員減への対応

- ・ 専門学科の定員割れ傾向、進路希望先として市外流出増加
- ・ R20年度の県内中学校卒業者がR5年度と比較して約3割減

● 学びを“選べる”高等学校づくりと定員割れへの対応

- ・ 定時制課程への進学者減、通信制課程への進学者増
- ・ 国の計画や「市立高等学校改革推進計画」で見送られていた将来的な検討課題も含めた検討

● 校舎の目標耐用年数経過への対応

- ・ R19年度には高津高等学校校舎の目標耐用年数80年経過

検討の方向性 1

魅力化・特色化に取り組み、生徒から“選ばれる”高等学校づくり

検討の方向性 2

多様な学び方から、生徒が学びを“選べる”高等学校づくり

検討の方向性 3

適正な配置及び規模の検討

併せて、目標耐用年数経過への対応検討

➤➤➤ 今後の取組 「(仮称) 新たな市立高等学校等改革構想」 策定予定

STEP-0 市立高等学校の現状と取り巻く環境変化の整理

⇒ 市立高等学校の生徒・教員等の状況や、授業料無償化などの国等の動向

STEP-1 本市で育成すべき人材像及び高校生年代で与えるべき経験

⇒ 企業ヒアリング等から設定した今後の社会で求められる人材を基に、川崎市の特性(産業特性、多様性等)から本市で育成すべき人材像を絞り込む

⇒ その人材像の育成に向けて、子どもたちのニーズ等も踏まえながら高校生年代で与えるべき経験を定める

STEP-2 今後重視すべき方向性

⇒ STEP-1を踏まえ、市立高等学校等において今後重視すべき領域を設定する

今回の報告内容

STEP-3 今後重視すべき方向性を具体化する将来的な学校像

⇒ STEP-2を具体化する将来的な学校配置や規模について、既存5校の活用方針も含めて、今後の方向性を定める

STEP-4 将来的な学校像の具体化に向けた取組方針

⇒ STEP-3の具体化に向け、各学校で取り組むべき内容や取組行程を示す

(仮称)新たな市立高等学校等改革基本計画

(第2次計画の検証結果で策定予定とした、「(仮称)新たな市立高等学校等改革構想」に相当)

市立高等学校に関する計画体系図

川崎市立高等学校教育振興計画（H15.5策定／終期無し）

- 生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実
- 開かれた高等学校づくりの推進
- 新しい視点による学校・学科・学系の創造
- 入学者選抜方法及び通学区域（学区）などの検討
- 生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり

具体化

市立高等学校改革推進計画（H19.7策定／おおむね10年）

- 中高一貫教育校の開校
- 商業高等学校全日制の改編、定時制普通科の募集停止、
商業科を川崎総合科学高等学校に移管→幸高等学校に改称
- 川崎高等学校定時制昼間部の新設
- 川崎総合科学及び橘高等学校定時制の改編

引き続き推進

市立高等学校改革推進計画第2次計画（R2.2策定／おおむね10年）

- 魅力ある普通科教育の推進
- 中高一貫教育校の充実
- 進路実現を目指した専門教育
- 特色ある専門学科の情報発信
- 定時制生徒自立支援の充実
- 定時制における学びの充実

令和6年度
中間検証を実施

関連計画

- 川崎市総合計画
- かわさき教育プラン 等

連携

（仮称）新たな市立高等学校等
改革基本計画

統合

01 市立高等学校の現状

- 明治44年 川崎町立女子高等技芸補習学校
- 大正14年 橘樹郡田島町商工実務学校
- 昭和 3年 高津町立高津実科高等女学校
- 昭和10年 川崎市立工業学校
- 昭和14年 地方から就職してくる青少年の学習機会保障として工業高校に夜間部設置
- 昭和17年 川崎市立橘中学校

普通教育と実業教育

- 昭和23年 学制改革により**川崎高等学校**(全・定)、商業高等学校、工業高等学校、**橘高等学校**(全・定)、**高津高等学校**
- 昭和24年 商業高等学校廃校(川崎高等学校商業科に統合)、工業高等学校廃校(県立川崎工業高等学校に合併)
- 昭和28年 戦後復興による産業教育振興法(昭和26年)による職業教育の活発化により**商業高等学校**(全・定)を設置
- 昭和30年 高津高等学校に定時制設置
- 昭和38年 科学技術の振興、中堅技術者の育成等社会的要請により**工業高等学校**を設置(平成5年に川崎総合科学高等学校へ改称)
- 昭和39年 工業高等学校に定時制設置

普通教育を主としながら、高度成長時代を反映して工業教育、商業教育、定時制課程にも力点

普通教育を行いながらも、工業地帯を抱える川崎市において、市民や社会の要請に基づいて変遷しながら、県立高等学校、私立高等学校とともに後期中等教育を担ってきた。

以降、生活科学科・福祉科(川崎)、ビジネス教養科(幸)、科学科(川崎総合科学)、スポーツ科・国際科(橘)の設置等、県内でも数少ない学科など、多様な学科を設けるとともに、川崎高等学校附属中学校の開設による併設型中高一貫教育校の設置、川崎高等学校の定時制課程昼間部の設置など、時代の変化に対応した教育の場を設置してきた。

市立高等学校一覧

学校名 (最寄り駅)	所在地	公簿地積 (㎡)	校舎の竣工年	課程	学科	全校生徒数 (R7.5時点)	入学定員			
							学級数		人数	
川崎高等学校 川崎駅から徒歩20分 港町駅から徒歩10分	川崎区中島3-3-1	27,414	平成26年	全日制	普通科 ※併設型	339/360	3	5	120	200
					生活科学科	115/120	1		40	
					福祉科	95/120	1		40	
				定時制	普通科昼間部	267/560		4		140
幸高等学校 矢向駅から徒歩15分	幸区戸手本町1-150	19,178	昭和62年	全日制	普通科	350/360	3	6	120	240
					ビジネス教養科	351/360	3		120	
川崎総合科学 高等学校 鹿島田駅から徒歩25分	幸区小向仲野町5-1	17,297	昭和61年 昭和62年 平成4年	全日制	情報工学科	118/120	1	6	40	240
					総合電気科	114/120	1		40	
					電子機械科	117/120	1		40	
					建設工学科	114/120	1		40	
					デザイン科	114/120	1		40	
					科学科	116/120	1		40	
				定時制	クリエイイト工学科	38/140	1	2	35	70
					商業科	13/140	1		35	
橘高等学校 向河原駅から徒歩8分 平間駅から徒歩10分	中原区中丸子562	22,547	平成12年	全日制	普通科	587/600	5	7	200	280
					スポーツ科	116/120	1		40	
					国際科	115/120	1		40	
				定時制	普通科 ※夜間部	80/280		2		70
高津高等学校 武蔵溝ノ口駅から徒歩7分	高津区久本3-11-1	25,098	昭和33年 昭和50年	全日制	普通科	825/840		7		280
				定時制	普通科 ※夜間部	89/280		2		70

全日制 計 31学級 入学定員1,240人 定時制 計 10学級 入学定員350人

<スクール・ミッションとは>

■背景

- ✓ 各高校の在り方を検討する上で、各高校が育成を目指す資質・能力を明確化することが重要
- ✓ しかし、学校教育目標等が抽象的で分かりにくい、校内外への共有・浸透が不十分といった指摘

社会的役割（スクール・ミッション）の再定義

- ✓ 各高校の存在意義
- ✓ 期待される社会的役割
- ✓ 目指すべき高等学校像

高等学校の設置者が各学校や地元自治体等の関係者と連携しながら再定義（施行通知で記載）

- ✓ 生徒の状況・意向・期待
- ✓ 現在の社会・地域の実情
- ✓ 学校の歴史・伝統
- ✓ 将来の社会像・地域像

高等学校の役割・理念を
分かりやすく提示



生徒

教職員



中学生

地域住民

地元市町村

地元産業界

- ✓ 中学校における進路指導の充実や中学生の学校選択、高校生の科目選択にも資するものとして期待

（出所）新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改革等について（概要）（文部科学省）

<全日制課程のスクール・ミッション一覧>

学校名	スクール・ミッション
川崎 高等学校	● 中高一貫教育校である普通科の学科を置く高等学校として、附属中学校における学びを深化させる探究的な学びと、発展的学習を可能とする教育課程を軸として、幅広い知識や思考力、判断力、学びに向かう力や豊かな人間性等を涵養するとともに、国際交流プログラムを通じて国際感覚を醸成し、国際都市川崎の未来をリードするグローバル人材を育成する。特に、基礎的・基本的な学習の充実化を図った上で、一人ひとりの興味・関心、希望に沿った多様な選択科目を設定する等により、自らの目標に向かって粘り強く着実に取り組むことができる人材を育成する。 ● 福祉に関する学科を置く高等学校として、実践的・体験的な専門教育を通じて、専門的な知識・技術のみならず、相手に適切に寄り添い、共感・受容し、対応していく福祉・看護等の分野における資質・能力を涵養するとともに、地域福祉を支える介護、福祉のスペシャリストを育成する。 ● 家庭に関する学科を置く高等学校として、生活を科学的に考え、身の回りの生活から課題を発見し、解決するプロセスを含む教育課程を通して、特に食物系及び服飾系分野についての専門知識及び技術を習得するとともに、生活関連産業のスペシャリストを育成する。
幸 高等学校	● 商業に関する学科を置く高等学校として、専門的な商業科目において、実践や体験を通じた知識、技術の習得を図り、ビジネスにおける専門性を身につけ、社会で活躍する人材を育成する ● 普通科の学科を置く高等学校として、幅広い知識や思考力、判断力等を育成するとともに、学習や地域との関わりを通じて学びに向かう力や豊かな人間性を育てる教育課程を編成し、生徒一人ひとりの自立と進路等の実現を図る。特に、総合的な探究の時間の充実を軸とした学びを通じて、主体的・協働的に学ぶ姿勢を伸ばし、社会に主体的に貢献していく人材を育成する。
川崎総合科学 高等学校	● 工業に関する学科を置く高等学校として、情報、電気、機械、建設、デザインの各分野において専門的な知識・技能を習得するとともに、産業界との積極的な連携による実践的、体験的な学びを通じて豊かな人間性と、職業人としての資質を涵養し、川崎市のものづくりを支える地域産業界の持続的な発展に資する人材を育成する。 ● 理数に関する学科を置く高等学校として、幅広い知識や思考力、判断力等を育成するとともに、理数分野における高い探究心と教養を高め、生徒相互の切磋琢磨の中で学びに向かう力や豊かな人間性等を涵養し、科学的分野において社会に貢献する人材を育成する。また、理数分野に重点を置いた教育課程の設定により進学進路等の実現を後押しするとともに、発展的な学びを通じて生徒一人ひとりのキャリア実現を図る。
橘 高等学校	● 普通科の学科を置く高等学校として、幅広い知識や思考力、判断力等を育成するとともに、学習や地域との関わりを通じて学びに向かう力や豊かな人間性を育てる教育課程を編成し、生徒一人ひとりの自立と進路等の実現を図る。また、一人ひとりの興味・関心、希望に沿った多様な選択科目の設定により希望進路等の実現を後押しするとともに、発展的、実践的な学びを通じて社会に主体的に貢献していく人材を育成する。 ● 国際に関する学科を置く高等学校として、幅広い教養と豊かな国際感覚を身につけるとともに、高い英語力の習得とコミュニケーション力の伸長を通じてグローバル人材の育成を図る。 ● スポーツに関する学科を置く高等学校として、体育・スポーツを体系的・体験的に学び、スポーツ分野に寄与する人材の育成を図る。
高津 高等学校	● 普通科の学科を置く高等学校として、幅広い知識や思考力、判断力等を育成するとともに、学習や地域との関わりを通じて学びに向かう力や豊かな人間性を育てる教育課程を編成し、生徒一人ひとりの自立と進路等の実現を図る。特に、基礎的・基本的な学習の充実化を図った上で、一人ひとりの興味・関心、希望に沿った多様な選択科目を設定する等により、自らの目標に向かって粘り強く着実に取り組むことができる人材を育成する。

<定時制課程のスクール・ミッション一覧>

学校名	スクール・ミッション
川崎 高等学校	●定時制課程普通科の学科を置く高等学校として、少人数指導や習熟度別の学習により、基礎学力を向上させるとともに、地域及び生徒の特性を踏まえ、多様性を尊重し、協働する豊かな人間性・社会性を涵養する。 また、関係機関と連携した活動を通じて、職業観、勤労観、規範意識を身につけ、地域社会に貢献することができる人材を育成する。
川崎総合科学 高等学校	●定時制課程において工業に関する学科を置く高等学校として、電気・電子、機械の分野について専門的な知識・技能を習得するとともに、専門資格取得を支援しながら職業人としての資質を涵養し、川崎市のものづくりを支える地域産業界の持続的な発展に資する人材を育成する。 ●定時制課程において商業に関する学科を置く高等学校として、専門的な商業科目において、情報処理基礎や簿記等を習得するとともに、ビジネスにおける専門性を身につけ、社会で活躍する人材を育成する
橘 高等学校	●定時制課程普通科の学科を置く高等学校として、生徒の個性や背景を踏まえ、習熟度別の学習等きめ細かな指導により基礎学力を向上させるとともに、確かな教養、規範意識、責任感を身につけ、社会的・経済的に自立していく姿勢と、豊かな人間性・社会性を涵養する。
高津 高等学校	●定時制課程普通科の学科を置く高等学校として、生徒の興味関心や習熟度を踏まえた教育課程の編成により、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、協働的思考力や情報リテラシー等を育成し、確かな規範意識や自立心を身につけ、主体的に学ぶ姿勢と、豊かな人間性・社会性を涵養する。

入学者選抜等の状況

- ✓ 市立高等学校では、全日制専門学科及び定時制課程が定員割れが頻発している。
- ✓ 一方、市内中学生の市外流出が増加しており、通信制希望者も増加している。

入学者選抜の状況

学校名	学科	入学年度					
		R3	R4	R5	R6	R7	R8
川崎	普通科(附属中学校)※	3.93	3.92	4.70	3.94	4.01	3.78
	生活科学科	1.18	0.79	0.90	1.10	1.23	0.79
	福祉科	0.62	1.00	0.79	0.85	0.79	0.95
	(定)普通科	0.47	0.38	0.58	0.49	0.63	0.76
幸	普通科	1.14	1.24	1.31	1.42	1.23	1.36
	ビジネス教養科	1.10	1.10	1.10	1.18	1.42	1.17
川崎総合科学	情報工学科	1.64	1.13	1.49	1.46	1.33	1.00
	総合電気科	1.03	0.90	1.00	0.90	1.10	0.85
	電子機械科	1.18	0.82	1.26	0.77	1.18	0.82
	建設工学科	1.05	0.87	1.05	1.13	1.31	1.08
	デザイン科	1.38	1.21	1.21	1.15	1.46	0.97
	科学科	1.51	1.08	1.33	1.05	0.95	1.28
	(定)クリエイト工学科	0.57	0.36	0.25	0.29	0.32	0.50
	(定)商業科	0.14	0.11	0.07	0.14	0.14	0.18
橘	普通科	1.31	1.23	1.40	1.18	1.53	1.41
	スポーツ科	1.23	1.15	1.15	1.44	1.41	1.26
	国際科	1.36	1.05	1.44	1.62	1.69	1.26
	(定)普通科	0.52	0.36	0.38	0.41	0.32	0.38
高津	普通科	1.06	1.39	1.34	1.54	1.23	1.22
	(定)普通科	0.34	0.39	0.34	0.50	0.39	0.16

※川崎高等学校はR2に普通科募集を停止しているため、附属中学校での倍率を掲載。
(出所) 神奈川県公立高等学校入学選抜一般募集共通選抜学力検査等受検状況(令和3年2月から令和8年2月、神奈川県教育委員会) までを基に作成

定時制課程における定員に対する充足率

学校名	学科	充足率 ※下段 入学者/定員					
		R3	R4	R5	R6	R7	5か年平均
川崎	普通科(昼間)	49% 68/140	44% 61/140	64% 85/132	59% 78/132	73% 96/132	58%
	普通科(昼間) 在県外国人等特別募集※	—	—	63% 5/8	25% 2/8	88% 7/8	
	普通科(夜間)	—	—	—	—	—	
川崎総合科学	クリエイト工学科(夜間)	46% 16/35	29% 10/35	26% 9/35	29% 10/35	31% 11/35	32%
	商業科(夜間)	9% 3/35	11% 4/35	6% 2/35	11% 4/35	14% 5/35	10%
橘	普通科(夜間)	51% 36/70	34% 24/70	37% 26/70	39% 27/70	30% 21/70	38%
高津	普通科(夜間)	34% 24/70	40% 28/70	29% 20/70	51% 36/70	36% 25/70	38%

市立中学校卒業者の進路希望の推移

卒業予定年度		H16	R3	R4	R5	R6	R7
市立中学校卒業予定者数		8,133人	9,908人	10,214人	9,929人	9,998人	10,042人
高等学校等進学希望	川崎市立	20.5%	14.7%	16.0%	17.0%	17.1%	15.8%
	市内県立	41.4%	38.7%	35.7%	36.0%	34.5%	32.7%
	市外(県外)国公立	9.4%	18.7%	18.2%	18.5%	20.1%	19.5%
	私立	18.1%	17.8%	19.1%	17.6%	17.5%	20.2%
	定時制課程	1.2%	1.0%	1.0%	1.1%	1.3%	1.1%
	通信制課程	0.7%	3.8%	4.0%	4.3%	4.7%	4.9%
その他		8.7%	5.3%	6.0%	5.5%	4.8%	5.8%

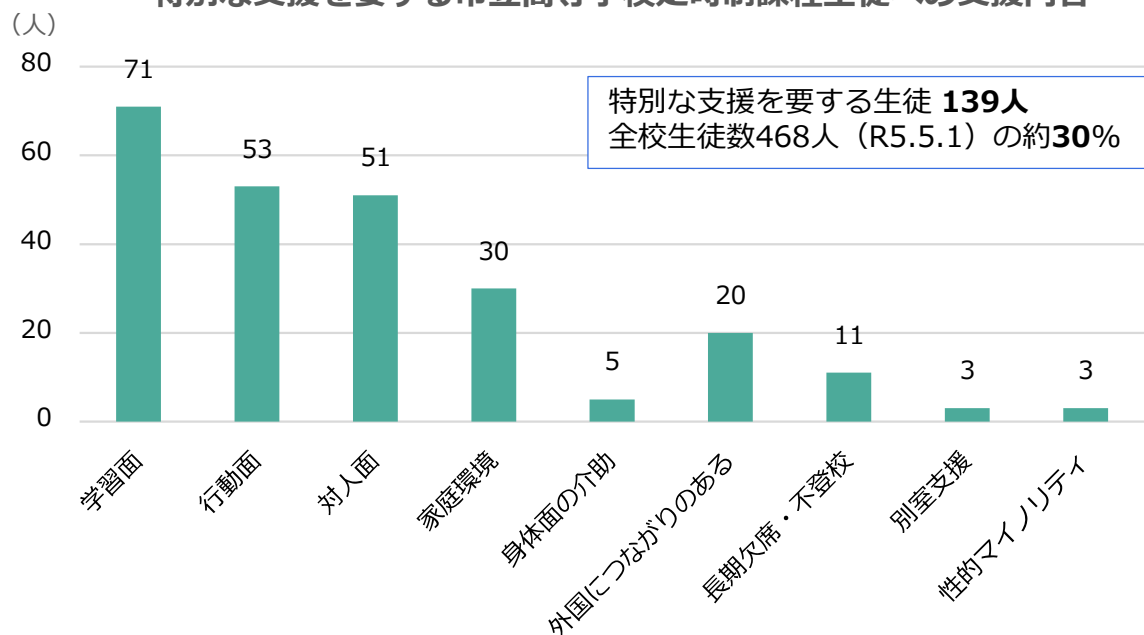
(出所) 年刊教育調査統計資料No.52(令和8(2026)年3月、川崎市教育委員会)を基に作成、各卒業年度の10月20日時点における当該年度市立中学校卒業予定者への調査による



特別な支援を要する生徒等の状況

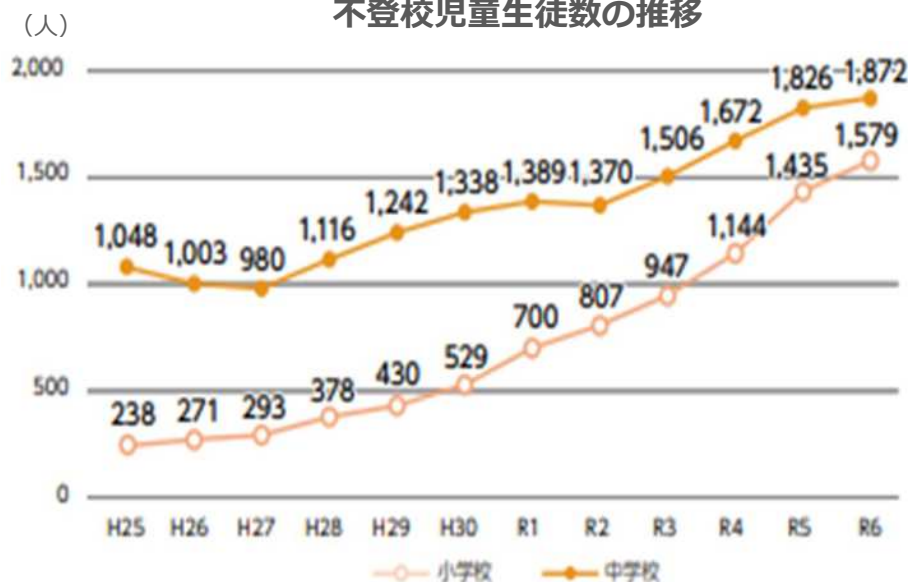
- ✓ 特に定時制課程には支援が必要な生徒が多数在籍しており、一人ひとりの課題に応じ、学習支援などを実施している。
- ✓ 市内中学生の不登校児童生徒は増加しており、生徒の抱える複雑かつ多様な課題に対応しながら学習機会を提供できる高等学校の仕組みを検討する必要がある。

特別な支援を要する市立高等学校定時制課程生徒への支援内容



※定時制課程の支援教育コーディネーター4人に聞き取りした結果を基に作成
 ※生徒の特性に応じて実施した支援を、次の項目別に分類して計上
 (1人の生徒に対して複数の支援を行った場合は、該当する項目全てに計上。)
 学習面…聞く、話す、読む、書く、計算する、推論することにつまずきのある生徒
 行動面…不注意、多動性、衝動性が見られる生徒
 対人面…円滑な対人関係を築くことが難しい又は強いこだわり等のある生徒
 長期欠席・不登校…現在長期欠席、不登校の生徒

川崎市立小・中学校における
不登校児童生徒数の推移



(出所) かわさき教育プラン第1期実施計画 (令和8 (2026) 年3月、川崎市教育委員会)

卒業生の進路状況

- ✓ 職業教育を主とする全日制課程専門学科では、大学や専門学校への進学者が増加しており、当初の設置目的とのミスマッチが発生している。
- ✓ また、大学進学者のうち、一般入試が占める割合は5割を下回っている。

令和6年度卒業生の進路状況

〈全日制課程〉

高校名	学科	4年制大学					短大	専門※	就職	その他
		文系	理系	一般	総合型 選抜	推薦※				
川崎	普通	60	28	<u>72</u>	6	10	1	2	0	7
	生活科学	6	1	0	3	4	2	<u>17</u>	1	3
	福祉	10	1	1	6	4	1	<u>20</u>	2	0
幸	普通	58	16	17	26	<u>31</u>	4	31	4	3
	ビジネス 教養	36	6	4	11	<u>27</u>	3	28	37	4
川崎総合科学	情報工学	0	28	0	9	<u>19</u>	0	7	1	1
	総合電気	0	6	0	1	5	0	1	<u>27</u>	0
	電子機械	1	11	0	1	11	0	2	<u>18</u>	0
	建設工学	0	9	0	2	7	0	2	<u>22</u>	0
	デザイン	3	20	2	7	14	0	13	0	3
	科学	6	28	<u>30</u>	3	1	0	1	0	3
橘	普通	123	49	<u>114</u>	20	38	3	13	0	10
	スポーツ	12	19	0	7	<u>24</u>	0	6	0	1
	国際	30	2	<u>20</u>	5	7	0	1	0	6
高津	普通	164	55	<u>93</u>	27	<u>99</u>	9	30	5	14
合計		509	278	353 (44.8%)	134 (17.0%)	301 (38.2%)	23	174	117	55

〈定時制課程〉

高校名	学科	4年制大学					短大	専門※	就職	その他
		文系	理系	一般	総合型 選抜	推薦※				
川崎	普通	5	0	1	0	4	0	9	21	11
川崎総合科学	クリエイ ト工学	1	0	0	0	1	0	0	10	2
	商業	0	0	0	0	0	0	1	1	0
橘	普通	1	0	0	1	0	0	10	5	3
高津	普通	0	0	0	0	0	0	1	11	6
合計		7	0	1	1	5	0	21	48	22

※推薦は、指定校推薦のほか、公募型推薦等も含めて計上している。
※専門は、専門学校及び職業訓練学校等へ進学した者を計上している。

市立高等学校の年間費用（全日制）

令和 6 年度地方教育費調査（令和 5 会計年度）

（単位 千円）

		全日制						
		A 支出	人件費	教育活動費	管理費	その他	B 収入	合計(A－B)
川崎市立 1 校平均 (全日 5 校)		821,256	645,132	92,642	76,122	7,358	88,082	733,174
按分	川崎	764,285	612,875	79,643	65,441	6,326	75,723	688,562
	幸	739,075	580,619	83,349	68,486	6,621	79,246	659,829
	総合科学	1,066,802	806,415	136,965	112,541	10,881	130,223	936,579
	橘	791,402	612,875	93,906	77,161	7,460	89,284	702,118
	高津	712,456	580,619	69,347	56,981	5,509	65,934	646,522
神奈川県立 1 校平均 (全日135校)		723,329	540,848	31,622	52,622	98,237	97,485	625,844
東京都立 1 校平均 (全日172校)		699,922	493,723	60,418	68,192	77,589	79,502	620,420

※支出は、土地費、建築費、債務償還費を含まない。

※収入は、授業料、入学金、検定料、日本スポーツ振興センター共済掛金その他収入の合計

※各市立高等学校の金額は、職員数や延べ床面積を基に案分して計算

川崎市立高等学校の全日制 1 校平均が高い理由

- 教員の定数は、基本的に学級数で決まる共通定数と専門学科加算定数の合計で決定。川崎市は校数に対して専門学科数が多いため、人件費の平均値が高くなる傾向にある。

【全日制の校数・専門学科数（令和 6 年度時点）】川崎 5 校11学科、神奈川135校65学科、東京172校65学科

- 川崎総合科学高等学校を除いた市立 4 校平均は**674,258千円**

市立高等学校の年間費用（定時制）

令和6年度地方教育費調査（令和5会計年度）

（単位 千円）

		定時制						
		A 支出	人件費	教育活動費	管理費	その他	B 収入	合計(A－B)
川崎市立 1 校平均（定時 4 校）		291,671	249,931	26,558	11,029	4,153	4,875	286,796
按分	川崎	406,690	339,906	42,493	17,647	6,644	7,800	398,890
	総合科学	313,313	279,922	21,246	8,823	3,322	3,900	309,413
	橘	233,336	199,945	21,246	8,823	3,322	3,900	229,435
	高津	233,336	199,945	21,246	8,823	3,322	3,900	229,435
神奈川県立 1 校平均（定時 20 校）		288,607	253,605	8,784	16,344	9,874	5,201	283,406
東京都立 1 校平均（定時 53 校）		337,041	262,483	24,202	17,880	32,476	7,496	329,545

※支出は、土地費、建築費、債務償還費を含まない。

※収入は、授業料、入学金、検定料、日本スポーツ振興センター共済掛金その他収入の合計

※各市立高等学校の金額は、職員数や生徒数を基に案分して計算

1. 実施方法

令和7年6月中旬～7月上旬にかけて、市立高等学校の全校生徒を対象に匿名方式によりWEBアンケートを実施

2. アンケート内容

【全日制課程】

- ・1年生には、高等学校受検にあたり参考にした材料・意見※や高校入学後のギャップ、高校で身につくと思う能力等
- ・2・3年生には、高等学校入学後のギャップや高校で身につくと思う能力、希望進路や高等学校への希望等

※川崎高等学校普通科は高校入学者選抜がないため、1年生も2・3年生と同じアンケート

【定時制課程】

- ・入学時点での定時制課程の重視度・理由や高等学校への希望、現在の勤務状況や希望進路等

3. 回答率

67.6%(2,752人/4,073人)

全日制課程:66.2%(2,373人/3,586人)

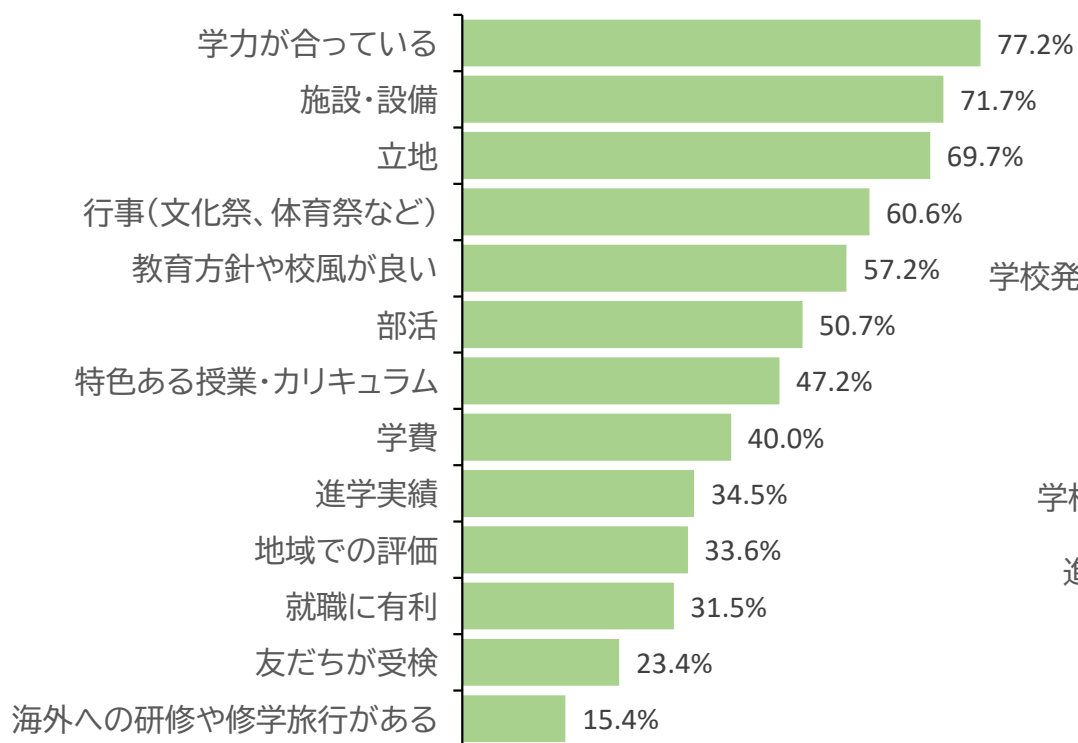
定時制課程:77.8%(379人/487人)

全日制課程のアンケート結果

- ✓ 受検校を決めるに当たり、学力以外では施設・設備や立地が重視されており、保護者や担任・塾の先生の意見以上に、学校の見学会・説明会や校外模試の結果を参考にした人が多かった。

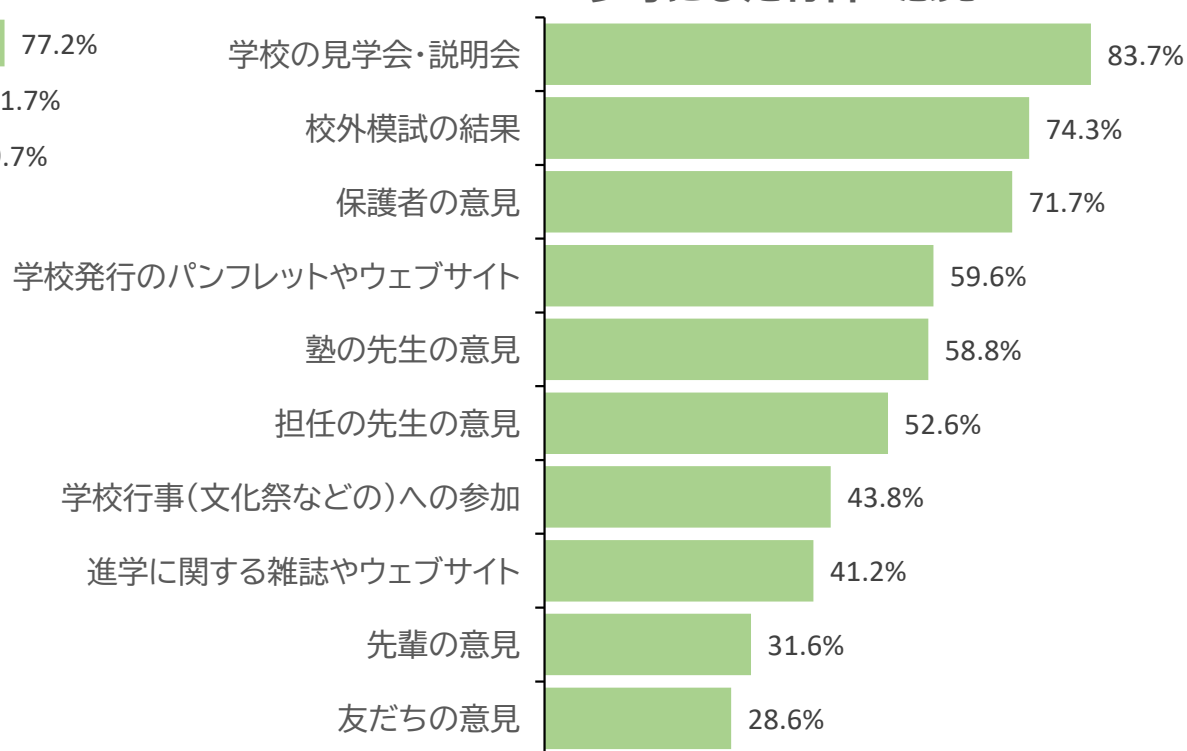
受検校を決めるにあたり、

重視した項目



※それぞれの項目で、「とても重視した」又は「重視した」と回答した人の割合

参考にした材料・意見

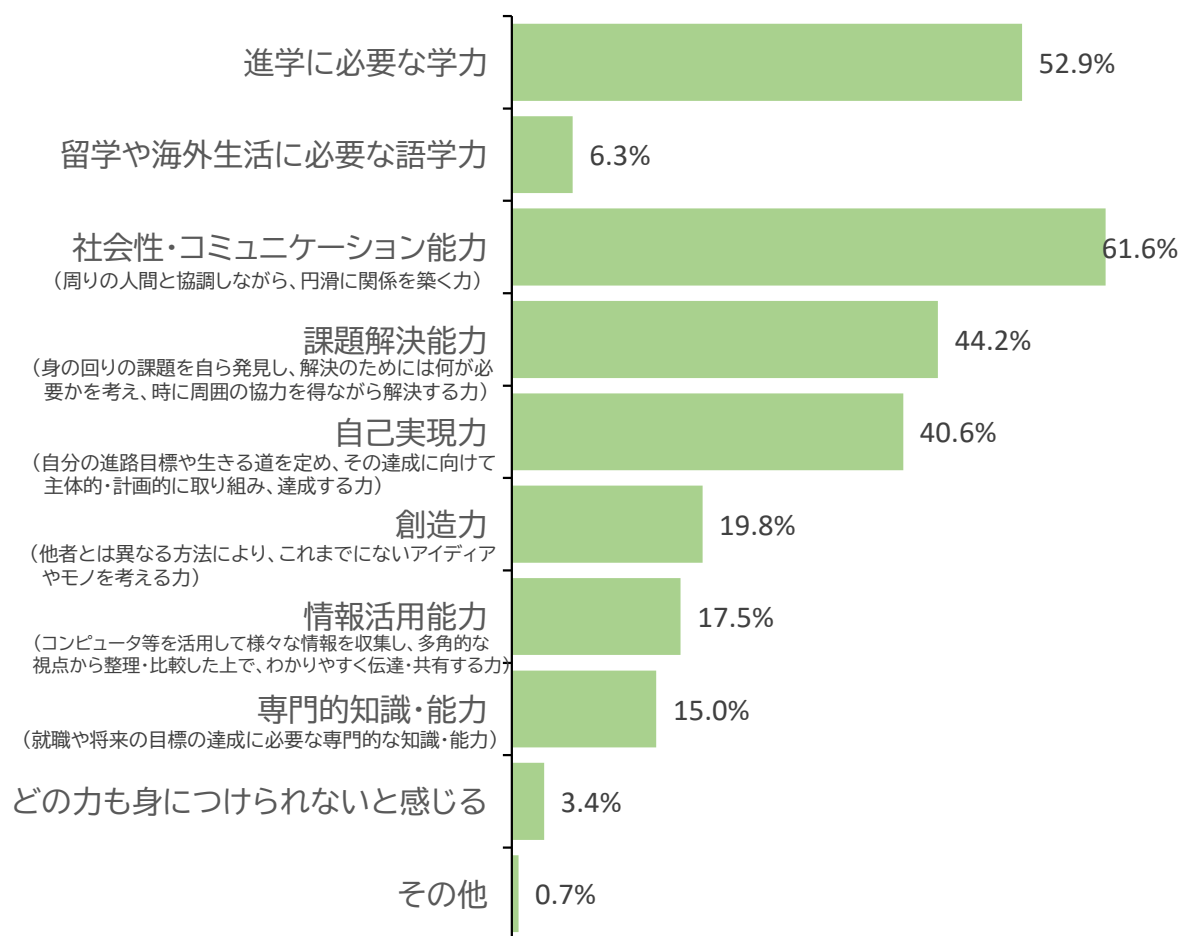


※それぞれの材料・意見で、「とても参考にした」又は「参考にした」と回答した人の割合

全日制課程のアンケート結果

- ✓ 高等学校では社会性・コミュニケーション能力を周囲との関わりの中で身につけられると思う人が最も多く、次いで進学に必要な学力であった。
- ✓ 課題解決能力や自己実現力は半数以下、創造力や情報活用能力は2割以下しか、高等学校で身につけられると思っていなかった。

高等学校で身につけられると思う能力



※優先順位が高いものを3つ以内で回答

身につけられると回答した能力は どの活動で身につけられると思うか

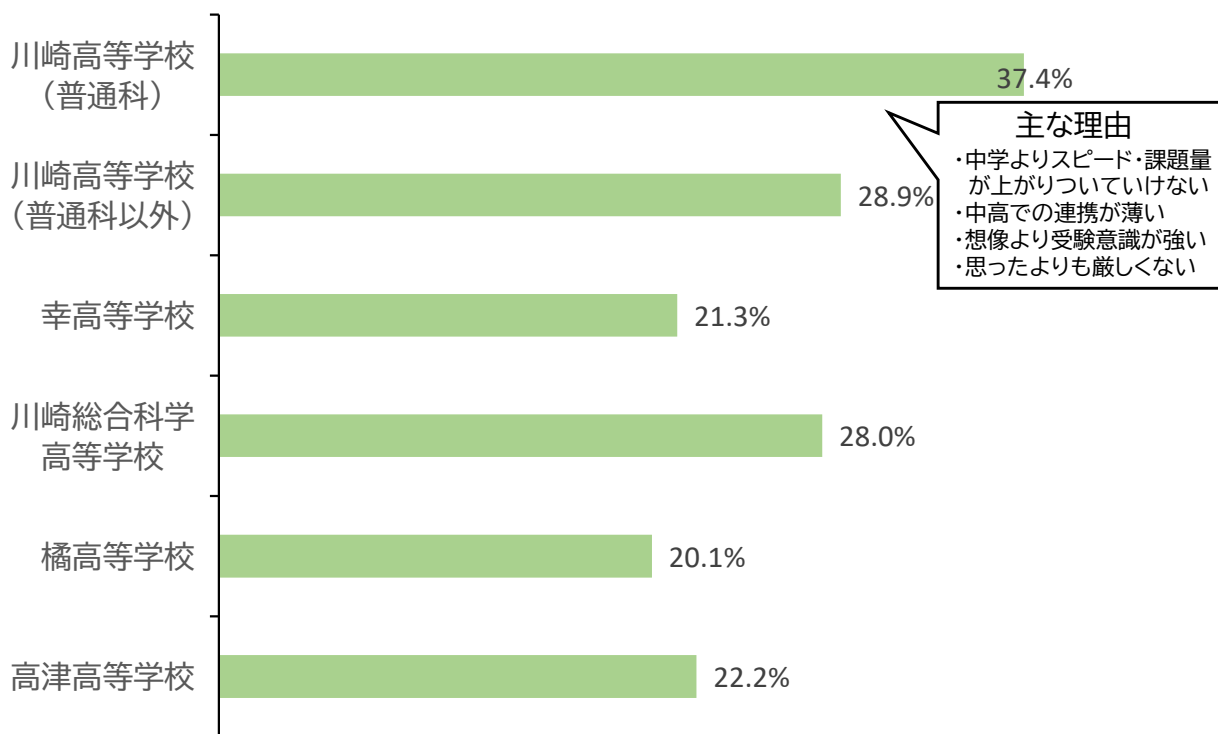
	学校での授業	部活動	周りの人とのコミュニケーション	学校外での活動	その他
社会性・コミュニケーション能力	38.2%	61.1%	76.0%	12.1%	2.3%
課題解決能力	74.1%	47.6%	34.2%	12.7%	2.0%
自己実現力	56.1%	49.1%	43.6%	16.8%	2.8%
創造力	56.2%	36.7%	51.8%	19.5%	5.1%
情報活用能力	95.7%	20.9%	18.8%	15.5%	4.3%
専門知識・能力	86.9%	24.1%	19.8%	16.0%	3.8%

※それぞれの能力を身につけられると回答した人が、複数選択により回答した活動の割合

全日制課程のアンケート結果

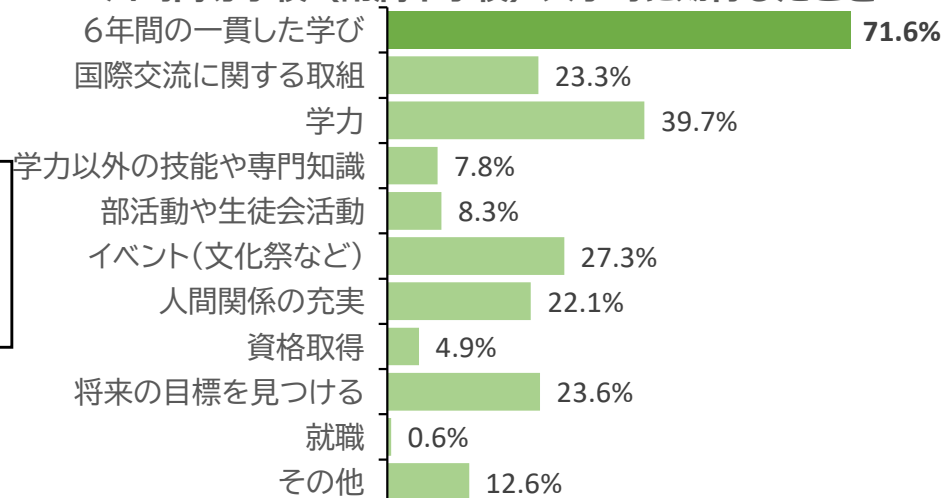
- ✓ 川崎高等学校普通科は中高一貫校として6年間の一貫した学びを提供しており、7割以上がそれを期待して入学しているが、高等学校の授業について入学前のイメージとは異なると感じた人の割合は、他の高等学校よりも高かった。

高等学校の授業について入学前のイメージとは異なると感じた人の割合



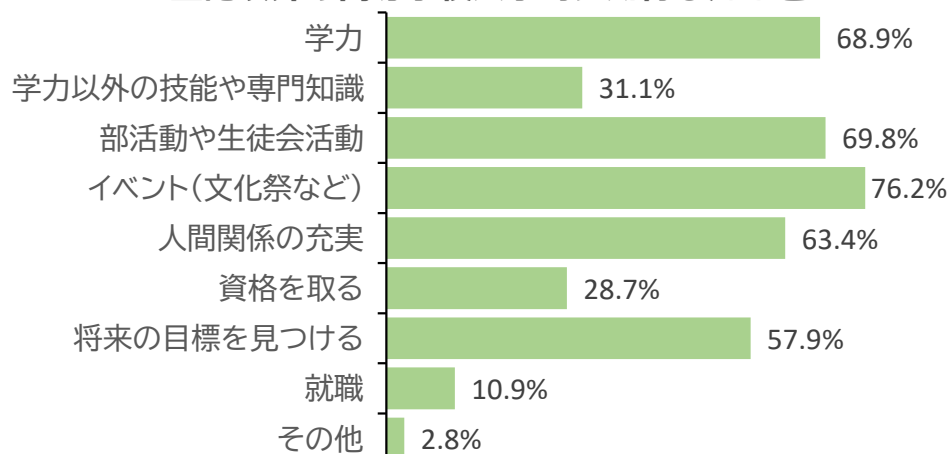
※高等学校の授業について入学前に想像していたイメージと比較して「大きく違う」又は「少し違う」と回答した人の割合

川崎高等学校（附属中学校）入学時に期待したこと



※川崎高等学校普通科の1～3年生が、複数選択により回答

上記以外の高等学校入学時に期待したこと



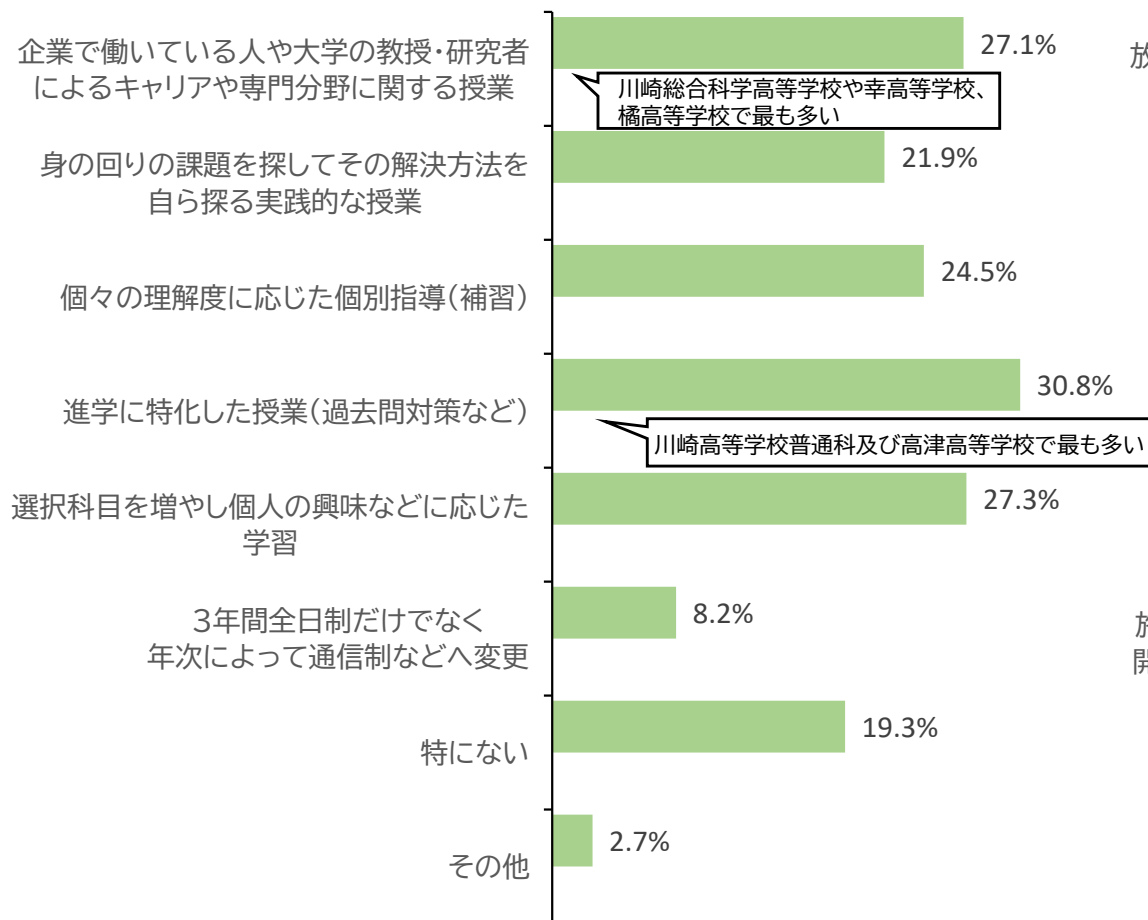
※川崎高等学校普通科以外の高校の1～3年生が、複数選択により回答

全日制課程のアンケート結果

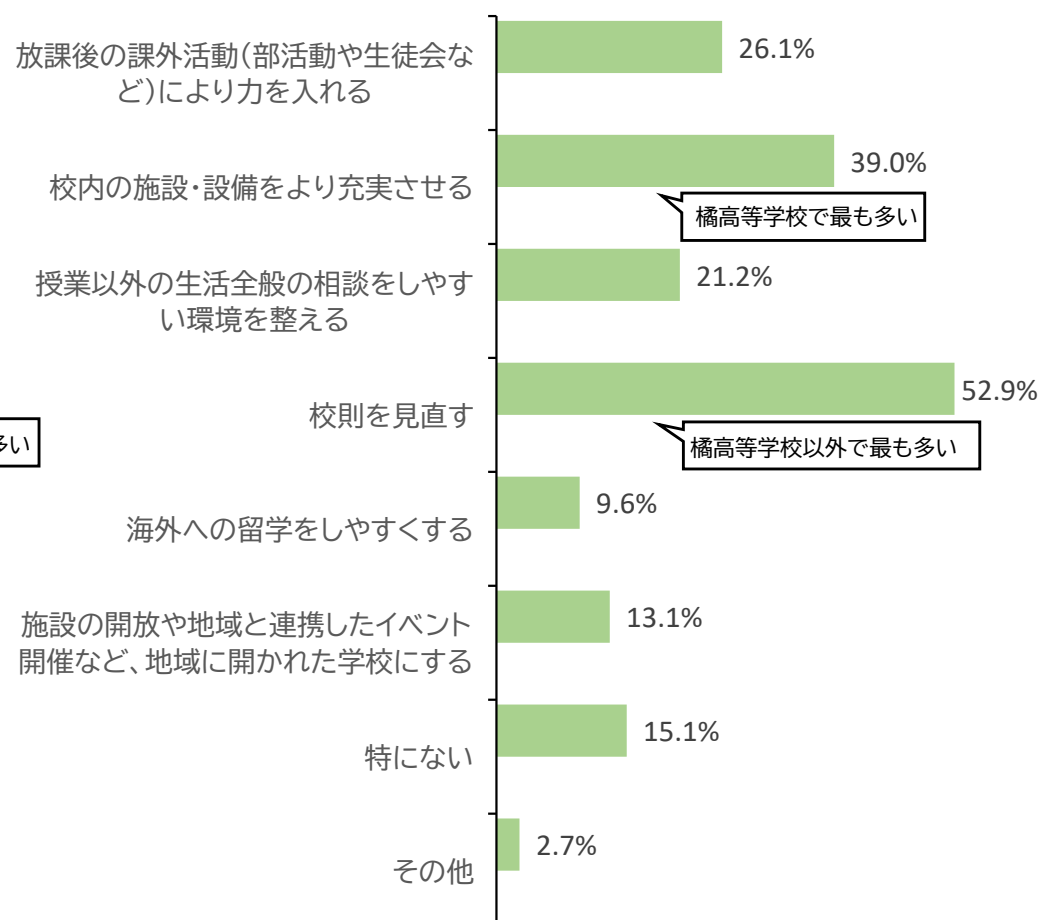
- ✓ 学校が取り組むべきこととして、授業の形式やカリキュラムに関しては、進学対策が最も多かったが、個人の興味に応じた学習や企業・大学の人材による授業の充実と回答する人の割合も高かった。
- ✓ 授業の形式やカリキュラム以外では、校則や施設・設備に関する意見が多かった。

自分が通っている学校がより良い学校となるために、

授業の形式やカリキュラムで取り組んだ方が良いと思うこと



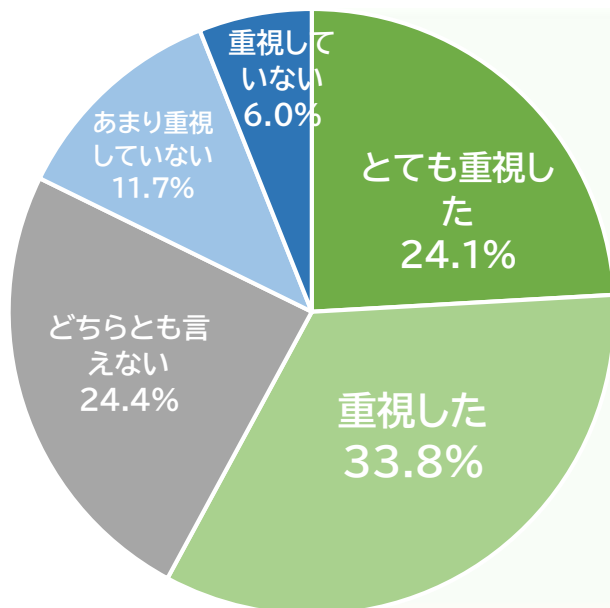
授業の形式やカリキュラム以外で取り組んだ方が良いと思うこと



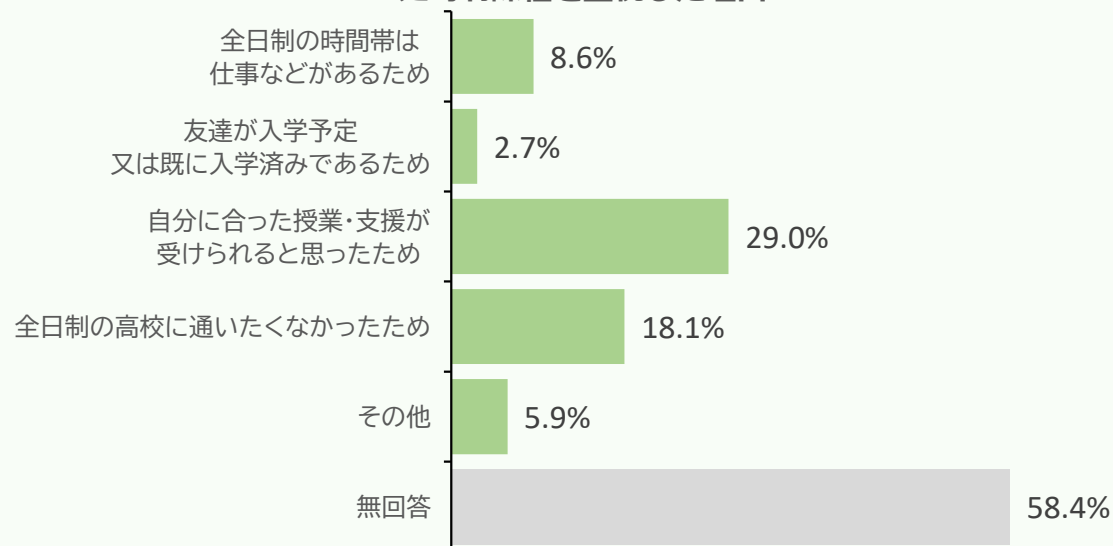
定時制課程のアンケート結果

- ✓ 5割以上が定時制課程であることを重視しており、その理由として、無回答を除けば自分に合った授業・支援を受けられることが最も多く、各校で実施している定時制自立支援カフェも多く利用されている。

定時制課程であることをどれくらい重視したか

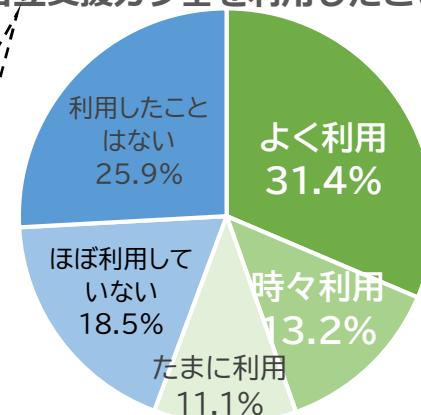


定時制課程を重視した理由



定時制自立支援カフェを利用したことはあるか

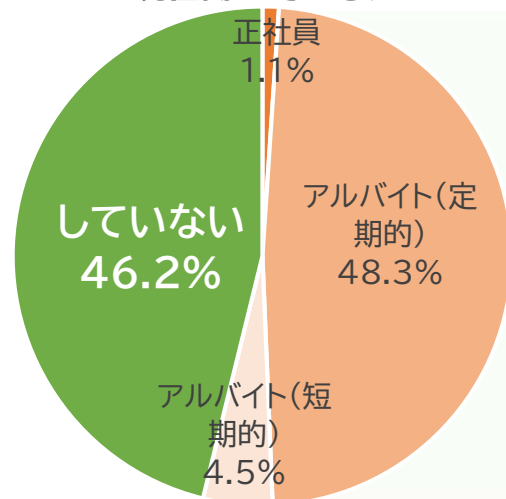
各校で週1回程度開催しているもので、キャリアサポートや居場所の提供により就学継続を促すほか、保健師等による相談会や食糧支援等を実施している。



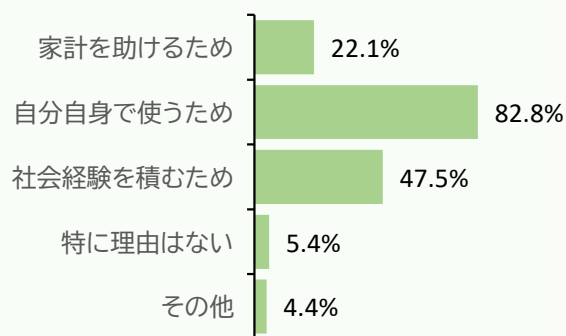
定時制課程のアンケート結果

- ✓ 定時制課程はかつて勤労学生の学びの場としての役割があったが、現在は勤務していない人も多く、卒業後は大学・専門学校への進学を希望する人が多かった。
- ✓ また、自分が普段通っている時間帯以外で学びたいと考える人も多かった。

現在働いているか

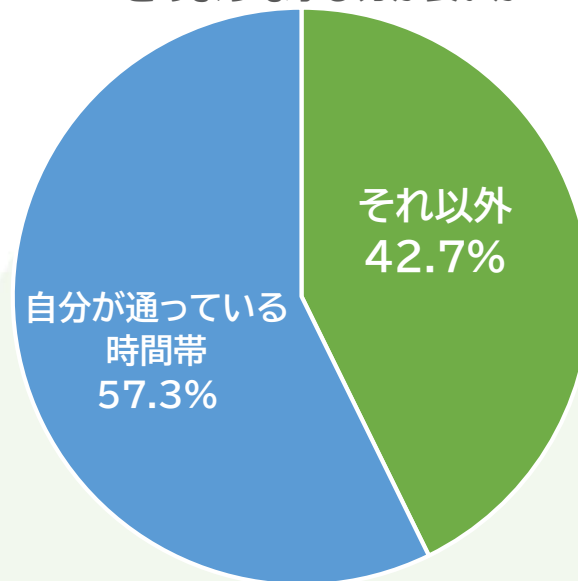


正社員・アルバイトで勤務する理由

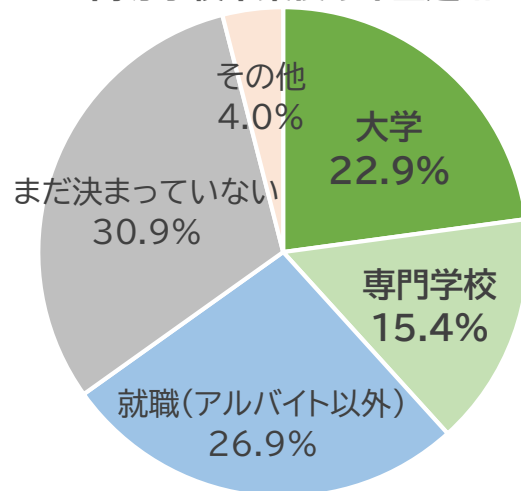


※正社員、アルバイト(定期的)、アルバイト(短期的)と回答した人が、複数選択により回答

学び方を選ぶ場合、
どのような学び方が良いか



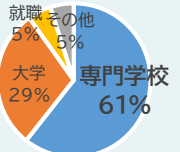
高等学校卒業後の希望進路



学校名	午前中心	午後中心	夜間中心	曜日により異なる時間帯	通信制
川崎(午後)	19.6%	61.8%	7.8%	6.4%	4.4%
川崎総合科学(夜間)	8.9%	26.7%	51.1%	6.7%	6.7%
橘(夜間)	13.8%	30.8%	44.6%	7.7%	3.1%
高津(夜間)	13.8%	13.8%	60.0%	4.6%	7.7%

(参考) 市立高等学校の特色等 (全日制)

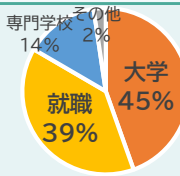
川崎高等学校

概要	・普通科(120名/学年)は併設型中高一貫校で、中学入学のみ ・生活科学科(40名/学年)及び福祉科(40名/学年)は、高校入学のみ ・市立では最も新しい、7階建て校舎を有する
特色	・普通科:総合的な探究の時間で少人数でのゼミ活動や、受験対策講座などを実施 ・生活科学科:食物や服飾などの専門教育のほか、市内企業と連携した商品開発を実施 ・福祉科:充実した実習設備を有し、介護福祉士国家資格の取得を目指す
進路実績	【普通科】 東京大、京都大、一橋大、東京科学大、東北大、慶應大、上智大、青山学院大、学習院大 【専門学科】 東京誠心調理師専門学校 横浜中央看護専門学校 東京家政大、神奈川大 

幸高等学校

概要	・商業学校(現ビジネス教養科(120名/学年))から始まり、平成29年に現在の普通科(120名/学年)を新設 ・現校舎は、昭和62年に完成
特色	・普通科では、総合的な探究の時間で、幸区役所と連携した“幸探究”を実施 ・ビジネス教養科では、簿記検定の対策講座のほか、企業と連携した実践的な学習を実施
進路実績	【普通科】 桜美林大、国士館大、神奈川大、専修大 神田外語学院、東京医薬看護専門学校 【ビジネス教養科】 横浜商科大、国士館大、大原学園、日本工学院 大陽日酸エンジニアリング(株)、日清製粉(株)、(株)JR東日本サービスクリエーション

川崎総合科学高等学校

概要	・工業科として、情報工学科、総合電気科、電子機械科、建設工学科、デザイン科の5科(各40名/学年)、理数科として科学科(40名/学年)を設置 ・ビル型校舎で、専門的設備等が充実
特色	・工業科では、各分野での確かな技術と知識を身に付けるためのカリキュラムを設定し、選択科目も豊富に設定 ・科学科では、理系難関大への進学を目標に、早い段階から入試対策を実施
進路実績	【工業科】 神奈川大、横浜国立大、多摩美術大、日本工学院 JR東海(株)、NEC(株)、(株)SUBARU、(株)キャノン 【科学科】 東京科学大、横浜国立大、東京農工大、中央大 

橘高等学校

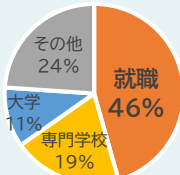
概要	・普通科(200名/学年)、国際科(40名/学年)、スポーツ科(40名/学年)を設置 ・バレー部をはじめとして、部活動が盛ん
特色	・普通科では、2年次から多様な選択科目を設置 ・国際科では、英語力向上や国際感覚を磨く専門科目が充実 ・スポーツ科では、実技や理論を学び、スポーツリーダーを目指す
進路実績	【普通科】早稲田大、立教大、法政大、明治大、中央大、北里大、駒澤大、 【国際科】上智大、早稲田大、立教大、津田塾大、青山学院大、学習院大 【スポーツ科】日本体育大、国士館大、日本大、桜美林大、帝京科学大

高津高等学校

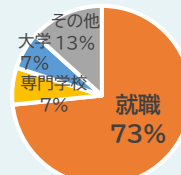
概要	・普通科(280名/学年)のみを設置 ・現校舎は昭和33年から使用しており、令和19年度に築80年を経過
特色	・基礎学力の定着を図れる科目設定や、多様な選択科目を設置
進路実績	神奈川保健福祉大、青山学院大、神奈川大、麻布大、亜細亜大、 桜美林大、大阪体育大、大妻女子大、国学院大、 洗足こども短期大、コーセー美容専門学校、川崎市

(参考) 市立高等学校の特色等 (定時制)

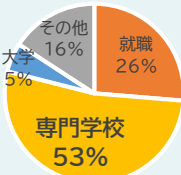
川崎高等学校

概要	・普通科(140名／学年)のみを設置(R7入学定員充足率:74.6%) ・市立としては唯一、昼間部を設置し、在県外国人特別募集(8名／140名)を実施										
特色	・課外での日本語指導や、学校設定科目として日本語を設定し、市立高等学校全体の外国人生徒34名のうち32名が在籍										
進路実績	F-LINE(株)、美容室イレブンカット、大原簿記医療秘書公務員専門学校、神奈川工科大  <table border="1"> <caption>進路実績 (川崎高等学校)</caption> <thead> <tr> <th>進路</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職</td> <td>46%</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>大学</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>24%</td> </tr> </tbody> </table>	進路	割合	就職	46%	専門学校	19%	大学	11%	その他	24%
進路	割合										
就職	46%										
専門学校	19%										
大学	11%										
その他	24%										

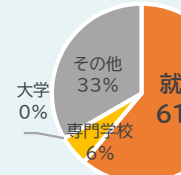
川崎総合科学高等学校

概要	・クリエイト工学科(35名／学年)及び商業科(35名／学年)を設置(R7入学定員充足率:25.7%)										
特色	・クリエイト工学科では、電気・電子コース及び機械コースを設定 ・基礎学力の定着のため、1年次に学校設定科目としてベーシックスキルズを設定										
進路実績	(株)はれコーポレーション、(株)京写ヒューマンアカデミー、多摩大  <table border="1"> <caption>進路実績 (川崎総合科学高等学校)</caption> <thead> <tr> <th>進路</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>大学</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table>	進路	割合	就職	73%	その他	13%	大学	7%	専門学校	7%
進路	割合										
就職	73%										
その他	13%										
大学	7%										
専門学校	7%										

橘高等学校

概要	・普通科(70名／学年)のみを設置(R7入学定員充足率:30.0%)										
特色	・1年次からキャリア教育を実施										
進路実績	(株)スカイクレイパー(CoCo壱番屋)、三菱ふそうトラック・バス(株)、横浜栄養専門学校、横浜商科大学  <table border="1"> <caption>進路実績 (橘高等学校)</caption> <thead> <tr> <th>進路</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>大学</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	進路	割合	就職	26%	専門学校	53%	その他	16%	大学	5%
進路	割合										
就職	26%										
専門学校	53%										
その他	16%										
大学	5%										

高津高等学校

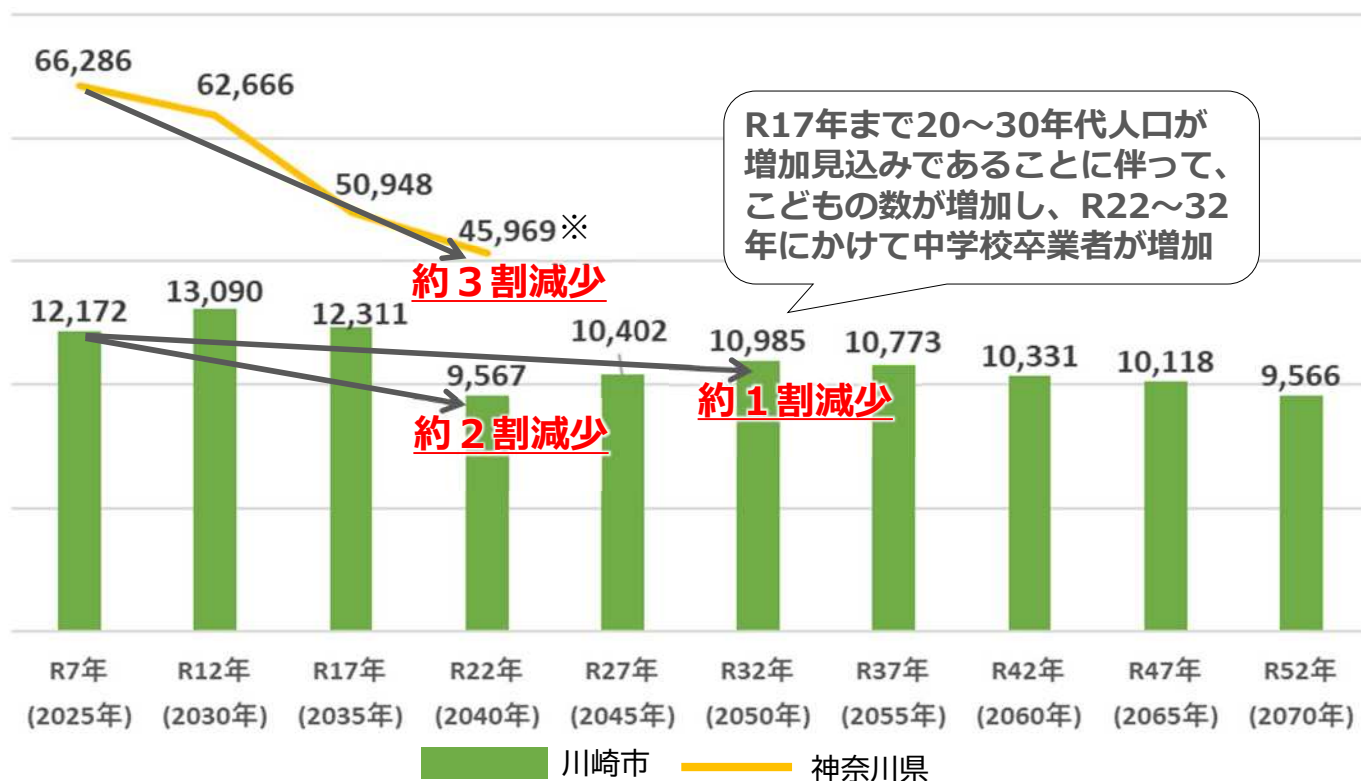
概要	・普通科(70名／学年)のみを設置(R7入学定員充足率:35.7%)										
特色	・基礎学力の定着を重視したカリキュラムを設定										
進路実績	三菱ふそうトラック・バス(株)、オーケー(株)、(株)ジンジブ、大原簿記医療福祉公務員専門学校  <table border="1"> <caption>進路実績 (高津高等学校)</caption> <thead> <tr> <th>進路</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>大学</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	進路	割合	就職	61%	その他	33%	専門学校	6%	大学	0%
進路	割合										
就職	61%										
その他	33%										
専門学校	6%										
大学	0%										

02 市立高等学校を取り巻く環境変化

市内中学校卒業生の長期的推計結果

- ✓ 川崎市総合計画の将来人口推計を基に市内在住の中学校卒業者を推計したところ、2040年には約2割減少するが、その後2050年までは増加すると想定されている。
- ✓ 長期的には市内の中学校卒業者は減少傾向である一方で、その傾向は神奈川県と比較して緩やかであることなども考慮しながら、規模の最適化を検討する必要がある。

川崎市及び神奈川県の中学校卒業者の推計



(出所) 川崎市は、川崎市総合計画の将来人口推計の15～19歳の人口を基に、令和6年10月時点の15歳～19歳のうち、15歳（中学校卒業生）の人口が占める割合を乗じて算出

神奈川県は、「令和6（2024）年度第2回神奈川県公立高等学校協議会資料」を基に作成

※神奈川県の令和22年（2040年）の数値(45,969人)は、令和21年（2039年）3月の数値

市立高等学校全日制入学志願者数
に換算すると

約1割減少の場合、
約110名（約3学級分）
減少する計算

約2割減少の場合、
約240名（約6学級分）
減少する計算

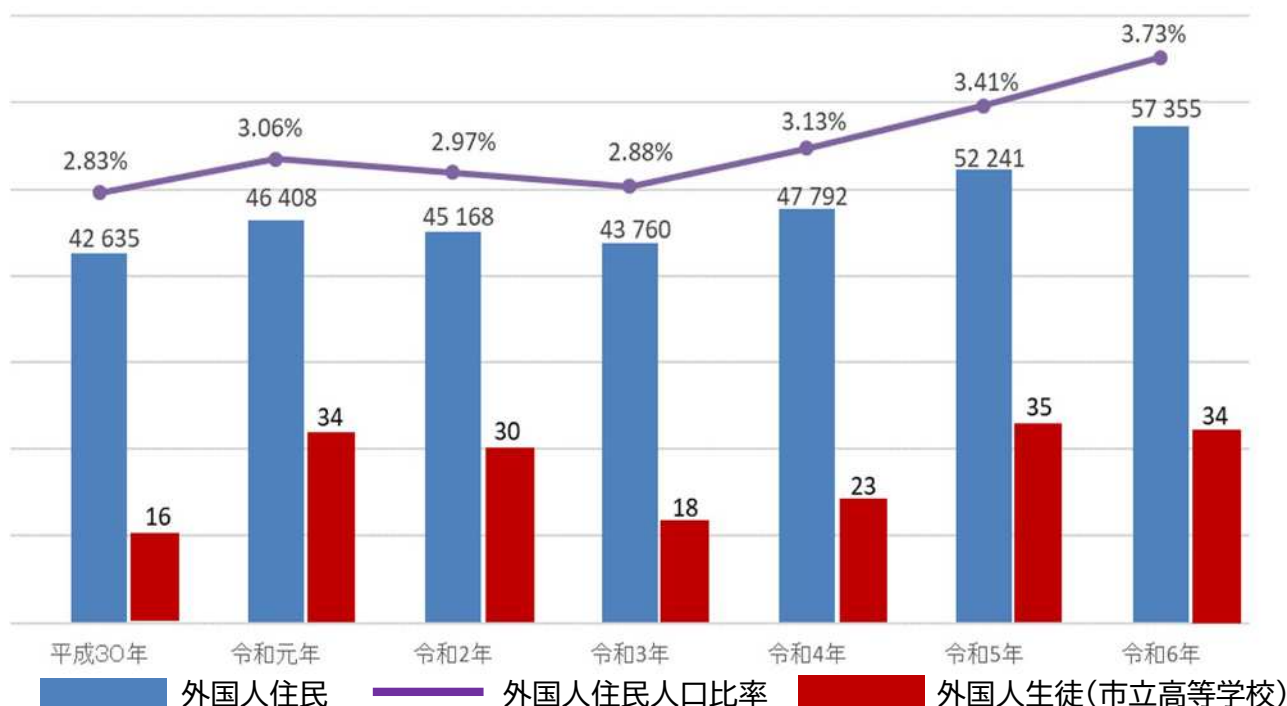
川崎高等学校の福祉科及び生活科学科の
収容定員＝240名（2学級80名×3学年）

※入学者選抜を実施しない市立川崎高等学校以外の全日制4校
の入学定員(1,120名)×10%又は20%で計算

外国人住民及び生徒の推移

- ✓ 市立川崎高等学校定時制課程を中心に外国人生徒を受け入れており、その生徒数は年度によって変動があるが、市内の外国人住民数及び人口比率は増加傾向にある。

市内の外国人住民及び市立高等学校の外国人生徒



(出所) 外国人住民及び外国人住民人口比率は、川崎市統計書を基に作成
外国人生徒(高等学校)は、教育調査統計資料を基に作成

市立川崎高等学校定時制課程

- R6外国人生徒34名のうち、32名が川崎高等学校に在籍
- 募集定員の一部で、外国籍保有者を対象とする募集枠を設定(8名/140名)
- 課外に日本語指導を実施したり、学校設定科目として日本語を設置
- 進学・就職支援のほか多文化教育を行うため、専門知識・経験を有する人材を定期的に配置

(参考)日本語指導を必要とする児童生徒数の推移

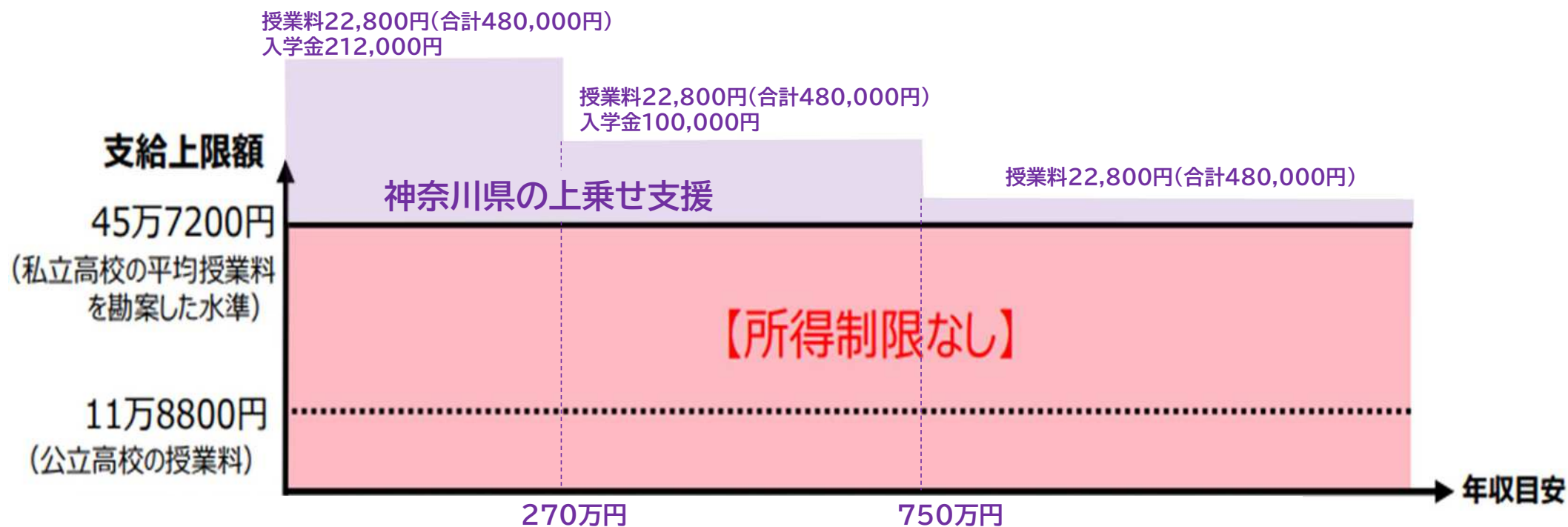
年度	小学校	中学校	合計
令和元年度	441	150	591
2年度	520	167	687
3年度	637	154	791
4年度	733	147	880
5年度	915	169	1,084
6年度	960	208	1,168
7年度	1,100	245	1,345

2倍以上

高等学校の授業料無償化①

- ✓ 国では高等学校等就学支援制度において、令和8年度より、所得制限の撤廃及び私立学校等への支給額の引き上げが実施されたほか、神奈川県では授業料の上乗せ補助及び入学金補助が実施されている。

高校生等への授業料等支援制度（令和8年度～）



※ 国制度での支給上限額: 11万8800円(公立)、45万7200円(私立)、33万7000円(私立高校等の通信制課程)

(出所) 高等学校等就学支援金概要資料(文部科学省)及び私立高等学校等学費支援制度概要資料(神奈川県教育委員会)を基に作成

高等学校の授業料無償化②

- ✓ 私立高等学校等についての授業料等補助の拡充により公立志願者割合は減少し続けており、国での所得制限撤廃及び支給額引き上げ(いわゆる高等学校授業料無償化)が公表されていた令和8年度入試において、その傾向は一層強まっている。

神奈川県における公立志願者割合（学校基本調査）

高校入学年度	令和元年度	国での支給額引き上げ 及び神奈川県での制度拡充					国での臨時支援金による 所得制限の実質的撤廃	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
県内公立中学校3年生(A)	68,494人	66,864人	64,917人	66,872人	67,684人	66,721人	66,005人	所得制限撤廃及び 支給額引き上げ
公立入学定員	46,783人	45,614人	44,089人	44,709人	45,109人	44,073人	43,554人	
公立志願者(B)	53,340人	50,936人	49,107人	49,961人	50,251人	49,682人	48,385人	
公立志願者割合(A/B)	78.0%	76.2%	75.6%	74.7%	74.2%	74.5%	73.7%	

(出所) 学校基本調査(神奈川県教育委員会)

※県内中学校3年生は、各入試実施年度の前年度の公立中学校3年生の生徒数

共通選抜（受験日）で見る公立志願者割合

高校入学年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
県内公立中学校3年生(A)	66,721人	66,005人	66,054人
全日制・定時制募集人員	41,476人	40,927人	40,635人
全日制・定時制受検者数(B)	47,155人	46,139人	43,373人
公立志願者割合(A/B)	70.7%	69.9%	65.7%

(出所) 県内公立中学校3年生は、学校基本調査(神奈川県教育委員会)の各入試実施年度の前年度の公立中学校3年生の生徒数

全日制・定時制の募集人員及び受検者数は、神奈川県公立高等学校入学者選抜一般募集共有選抜学力検査等受検状況(神奈川県教育委員会)

神奈川県立高校における再編・統合等

- ✓ 神奈川県では、「県立高校改革実施計画」に基づき、再編・統合等を進めている。
- ✓ 市内では、全日制では麻生総合高等学校が田奈高等学校に令和8年度に統合されたほか、定時制では向の岡工業高等学校が令和7年度に募集停止となっている。

●再編・統合

(統合後は矢印先の校舎を利用)

●定時制課程の募集停止

(全校とも令和7年度)



03 企業からのヒアリング結果

1. ヒアリング企業

- ・事業領域・規模・本市との親和性等を考慮し、製造や情報通信、医療・福祉といった分野における大企業を中心にスタートアップも含めた10社を選定
- ・10社のうち、6社は人事採用部門、4社は執行役常務などの経営者層にヒアリングを実施

2. 内容

- ・今後(例えば2040年を1つのターゲットにして)、各社又は産業界において求められる能力や必要となる人材について
- ・上記の能力(人材)の育成にあたり、学校教育に対して期待することについて

今後求められる能力（人材）について

A社

- ・日本ではものづくりにこだわる人材が少なくなっており危機感がある。ものづくりが好きとか楽しいと感じるというマインドを高等学校段階で涵養し、川崎ブランドとなるような「ものづくり人材」を育成したい。
- ・専門的な技術は後からでも身につけられる。
- ・ゼロイチの「創る人材」よりも、アイデアを具現化できる「作る人材」の方が多く必要で、アイデアを形にすべく、一定の知識と自信をもって他者と主体的に連携できる人材が 今後求められる。

B社

- ・ジョブ型雇用で職種により求められるスキルが明確になってくる中、理系人材の方が大学での学びをどのように生かせるかを論理的に説明できている傾向がある。また、求められる能力に自分を合わせるよりも、自分自身のスキルを活かせるアウトプット(仕事)を作れる人材が社内で活躍できる。
- ・社会で活躍するためには、学び続ける能力が必要であり、その点では詰め込み教育のように強制的にやらされる経験も必要

C社

- ・客観的な判断はAIで可能だが、曖昧な状況で「決められる人材」が今後求められる。決めるためには自分の中に「熱量(哲学、信念)」を持っている必要があり、熱量はつらい時や悔しい時に発生するものだが、無理を強いられる点で大学の研究室は良い教育機関
- ・I型人材(1つの専門性を極めた人材)ではなく、 π 型人材(複数の専門性をもって幅広い視野を持つ人材)が今後求められる。
- ・グローバルリーダーより地域社会を支える人材が多く求められ、その点で道德教育は重要。
- ・AIや自動化が進展しても、製造管理者や現場技術者は今後も必要であり続ける。

今後求められる能力（人材）について

D社

- ・様々な個性が集まり互いに強みを補い合って成長し続ける組織が理想であり、そのような組織で輝ける人材とは、幅広い知見とともに複数の強みをもっている人材である。
- ・グローバル人材としては、相互信頼と理解を生み出す誠実さに加え、変化を前向きに捉えられること、失敗を恐れないこと、絶え間なく学び続けられることが求められる。
- ・AIや機械化では代替しきれない部分があり、最終判断は必ず人間が行う必要があり、製造現場から人間がいなくなることはない。

E社

- ・近年職種問わずゼロイチの能力が特に求められており、日本の教育では自ら問いを書いて答えを導き、他人に自信をもって示す経験が不足しているが、その経験を有する人材を重視
- ・未知で不確実な状態で事業を進めるためには、自己肯定感(自信)を持っていることが重要
- ・理系院卒だったがビジネス職になっている社員もあり、今後AIの進展によりエンジニア職やビジネス職といった職種の区別がなくなると思っているが、そのような時代でも意思決定するのは人間なので、リーダーシップが取れる人材がより重要になる。

F社

- ・新卒人材では、経済産業省が示す社会人基礎力※+αを求めており、特に自分の考えを自信をもって話せる力がポイントである。また、ものごとを俯瞰できる能力は必要
- ・今後技術が進展しても、製造現場から人間がゼロになることはない。

※人生100年時代の社会人基礎力

「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱したもの。



（出所）経済産業省ホームページ

今後求められる能力（人材）について

G社

- ・地球規模で脱炭素化を目指す過程で既存システムの多くが1度否定されることになるため、今後は、未来に必要なシステムを構築・デザインする力が求められるようになり、STEAM教育においてArtが重要なものこのためである。
- ・さらに、そのシステムを社会全体と対話しながら実装していく力、様々な科学技術知識を組み合わせる新たなシステムを生み出せる科学技術的知識力、新たな科学領域を拓く研究力も必要であり、新たな技術・知識体系を作り直す際には、理論を積み上げるのではなく、推論を立てた上で、それはどうすれば作れるのかをブレイクダウンする力が重要である。

H社

- ・職種に関わらず共通するものは社会人基礎力で、高校段階ではこれに尽きるのではないかと。
- ・本社として上流行程職(新規事業創出等)や研究開発職は欠かせないが、グループ全体で見ればAIの進展によってもシステム保守を担う人材は今後も無くならない。
- ・ジョブ型雇用により、即戦力性の高い人材を重視するようになっており、人材の流動性を促進している。

I社

- ・自分の意見を発信できる力と相手の発言を理解できる力(チームで総合力を発揮できる人材)を重視しており、新卒人材では専門性を重視していない。
- ・イマジネーション(想像力)とクリエイティビティ(創造力)は経営課題として認識されており、研究開発職が今後増えていく感覚はある。
- ・技術職は現在も不足しており、今後10年は減らない。
また、ジョブ型雇用の流れは今後強まっていくだろう。

J社

- ・特定のスキルを求めているわけではなく、論理的思考力などのポテンシャルを重視して採用しているが、好奇心をもって取り組めるかは非常に重視している。
- ・特定の職種が必要になるという印象はないが、社会や会社が変化していく中では、変化を好意的に捉えられるマインド・変化に柔軟に対応できること・楽観さが求められ、変化を前向きに捉えてどう生きるかを、自分自身で考えていくことが求められる。

今後求められる能力（人材）について

（参考）未来人材ビジョン（経済産業省（令和4年5月））

これからの時代に必要となる能力やスキルは、基礎能力や高度な専門知識だけではない。

次の社会を形づくる若い世代に対しては、
「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」
「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」
「グローバルな社会課題を解決する意欲」
「多様性を受容し他者と協働する能力」
といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる。

「問題発見力」や「的確な予測」等が求められるエンジニアのような職種の需要が増える一方、事務・販売従事者といった職種に対する需要は減る。

56の能力等に対する需要

2015年		➡	2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14		問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13		的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12		革新性※	1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11		的確な決定	1.12
スピード	1.10		情報収集	1.11
柔軟性	1.10		客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10		コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09		言語スキル：口頭	1.08
基盤スキル※	1.09		科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09		柔軟性	1.07
⋮	⋮		⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

まとめ

- 社会が変化する中にあるのは、変化を好意的に捉え柔軟に対応できる素養が必要であり、曖昧な状況下でもリーダーシップを発揮して決断できる人材が求められる。
- 未来に必要なシステムを構築・デザインできる力（ゼロイチ、クリエイティビティ）が求められる一方で、他者との主体的な連携によりアイデアを具現化できる人材がより求められる。
- AIや自動化が進展しても、製造管理者（システム保守を担う人材）は必要であり続け、また技術者においても今後はπ型人材（複数の専門性をもって幅広い視野を持つ人材）がより求められる。
- リーダー人材よりも地域や社会を支える人材が多く必要だが、そのような人材でも相手の意見を理解しつつ、自分の考えを伝えられる力などの基礎的能力は職種を問わず共通して必要であり、また社会で活躍するには学び続ける能力が求められる。

A社

- ・高等学校段階では素養を身につけることが重要であり、高等学校の教育に期待している。当社の現場を見てもらったり、当社からものづくり好きな人材を派遣してものづくりの面白さを語らせることで、ものづくりの素養を身につけてほしいと思っている。
- ・総合的な探究の学習にメンターとして無償で人材を派遣することも可能であり、大人と同じように当社に通ってもらって、完成度は低くても何かを実際に作ってもらい、そのプロセスの中でものづくりの楽しさを感じてもらえる取組をしたい。
- ・チーム組成は学校の先生に行ってもらい、リーダーとならない子であっても、仲間とのものづくりを通じて、誰かと主体的に連携することを経験してもらいたい。

- ・アカデミックなゼミ化は早期化する傾向がある中で、高等学校でのゼミは面白いが詰め込み教育も大事であり、結局は良い大学に行くことが重要なので、実施時期は考えどころ。

B社

C社

- ・高等学校でのゼミ活動は本質的に意味があるが、生徒を否定できる先生がいないと難しく、教育では否定されたり、失敗する経験がもっとあるべきであり、その点で何かをつくらせることは成功・失敗が分かりやすいため有効
- ・一方で、結果の評価は一定の学力層以上でないと厳しい。
- ・教科型学習は必要で、ちゃんと学べば役に立つ。一方で、教科書はゲームでいえば攻略本だが、ゲームとなるミッションがない中で学んでも面白くない。

- ・若い世代への種まきという意味でも日本の将来を考えて若い世代に投資をすることは重要なので、総合的な探究学習にメンターを派遣することは可能である。
- ・好奇心は、元々誰もが持っているもので、育てるよりも取り戻してもらうものであり、ビジネスには正解がないように、学校教育においても、正解を教えるだけでなく、正解がないものに取り組むことで、好奇心を取り戻すことが必要である。

D社

E社

- ・ゼロイチの能力につながるどころだが、白紙の状態から自ら興味を持ったことに、自ら問いを書いて答えを導き出し、自信をもって他人に示すという経験を積ませることが重要

- ・ものごとの考え方や自分の考えを分かりやすく伝える力を身につけることが重要だが、少人数でないと厳しいのではないかな。
- ・他の高専でアイデアコンテストのメンターをしているが、学校や生徒と関係性を構築して会社を知ってもらうことは採用活動上も重要なので、その点で会社にもメリットはある。

F社

G社

- ・今後、新しいことは1人では描くのではなく、みんなで描くものになるため、高校生年代ではみんなで1つのものを描いていく経験を積ませることが重要である。
- ・あらゆる基礎を学んで大学で専門的なことを学ぶ教育では何故それを学ぶのかが理解できないため、まず大きなものを見せた上で、こどもが関心を持ったものを伸ばす教育であるべき。
- ・川崎市だからこそできる教育として、市内の研究所・企業をどう活用するかが重要。

- ・自分の学びがどのように社会に結び付いているかをイメージできる教育が必要
- ・目立たなくても必要な仕事は世の中にたくさんあることから、高校段階で色々な企業を知る機会を与えることが重要
- ・ICT能力は早い段階で学んでおくべきだと思う。

H社

I社

- ・広報やCSR活動として、探究学習へのメンター派遣に協力できる部分はある。
- ・文書作成能力は学校で身に付けておいてほしい。

- ・学校において、企画を作ったり会議では発言しないと意味がないということを学ぶ機会があると良い。
- ・社会に出る最初のキャリアを早めに意識するのは良いことで、様々な人に話を聞く機会があった方が良い。ただし、自分の最終形は就職後に考えることでも良い。

J社

(参考)未来人材ビジョン(経済産業省(令和4年5月))

デジタル時代では、教育を

①「知識」の習得 と、

②「探究(”知恵”)力」の鍛錬

という2つの機能に分け、レイヤー構造として捉え直すべきではないか。

「知識」を習得するレイヤーでは、デジタルを基盤に、企業や大学等の教育プログラムを共通の知として整備することで、誰もが年齢や居住地を問わずにアクセスし、個別最適な学びを実現させるべきである。

「探究力」を鍛錬するレイヤーでは、社会課題や生活課題の当事者として、課題の構造を見極めながら、自分に足りない知恵を集め、異なる他者との対話を通じて、協働的な学びが行われるべきである。

その際、世の中の社会課題を機敏に感知するスタートアップの知見を教育にも取り入れる必要があるのではないか。

まとめ

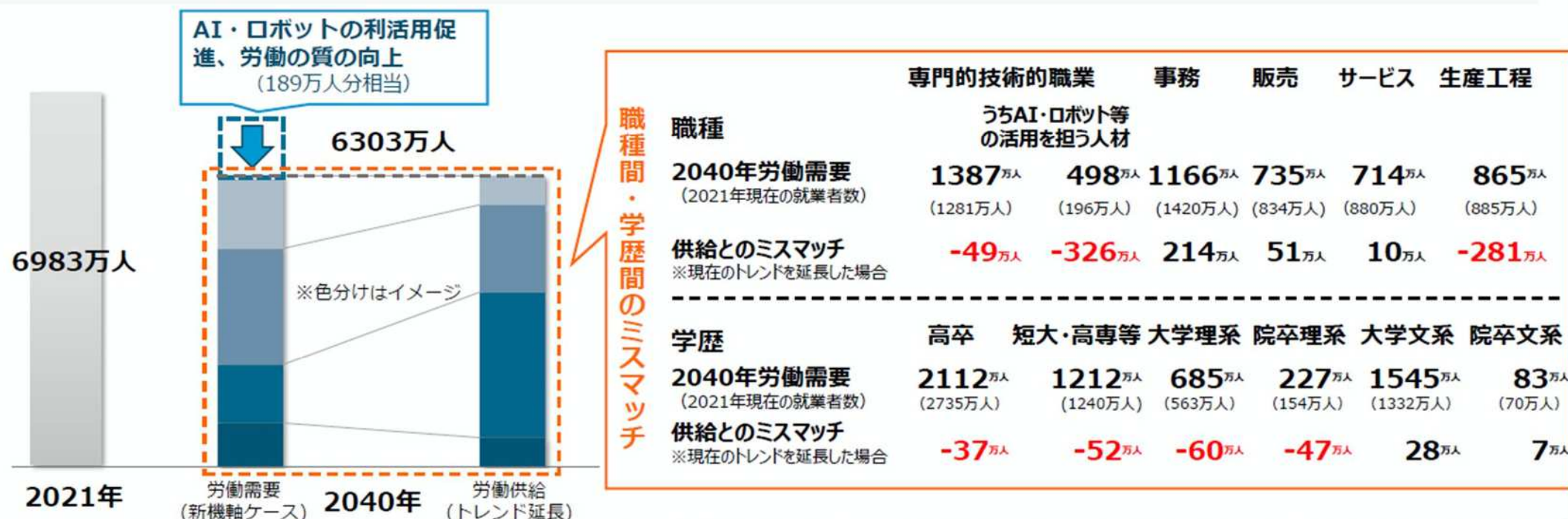
- 高等学校段階では素養を身につけることが重要だが、川崎市だからできる教育として、総合的な探究の学習(ゼミ活動)にメンターとして人材を派遣することは可能であり、仲間と共同で1つのものを描いたり、何を実際に作る過程を通じてものづくりの楽しさを感じたり、自ら興味を持ったことに自ら問いを書いて答えを導き出し他人に示す経験を積ませるべき。
- 高等学校でのゼミ活動等を通じて失敗したり否定される経験がもっとあるべき。
一方、結果の評価は一定の学力層以上でないと厳しく、また進学の観点を踏まえると、教科型学習(詰め込み教育)も必要
- 教科型学習では、こどもの好奇心を伸ばすためにも、どのように社会と結び付いているかをイメージでき、また個別に最適化された学びを実現できると良い。
- 社会に出る最初のキャリアを早めに意識する上で、様々な企業や人から話を聞いてみることは必要であり、ICT能力は早い段階で学んでおいた方が良い。

04 今後重視すべき方向性

今後特に人材不足が見込まれる分野・職種

2040年の就業構造推計

- 本推計では、少子高齢化による人口減少に伴って労働供給は減少するものの、AI・ロボットの活用促進や、リスキング等による労働の質の向上により大きな不足は生じない（約200万人分の不足をカバー）。今後、シナリオ実現に向けた政策対応が必要。
- 一方、現在の人材供給のトレンドが続いた場合、職種間、学歴間によってミスマッチが発生するリスクがあり、戦略的な人材育成や円滑な労働移動の推進が必要となる。



(注) 試算方法：労働需要については、新機軸ケースの産業別就業者数を、足下データ（2020）の産業×職業×学歴別比率で分解し、その上で①産業別の自動化影響による職種の变化、②職種ごとの学歴構成の変化を加味。労働供給については、2040年就業
者数*を、産業別・職業別就業者数の足下の増減傾向が続くと仮定して産業×職業別比率を推計、分解（学歴については、最終学歴に大きな変化が生じないという仮定のもと、大学進学率の上昇を加味しつつ、年代に応じ、足下比率（2020）をスライド）。

*2023年度版労働力需給の推計（JILPT）の労働参加漸進シナリオを活用

(出所) 2040年の産業構造・就業構造の推計（2025年5月、経済産業省）

川崎市の特性（産業集積、多様性等）を生かして育成すべき人材像

今後特に人材不足が見込まれる分野・職種

		管理的 職業	専門的技術的職業 うちAI・ロボット等 の活用を担う人材	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械 運転	運搬・清掃・ 包装等	
全産業	2040年の労働需要 (2040年の労働供給 ※現在の トレンドを延長した場合)	124万人 (175万人)	1387万人 (1338万人)	498万人 (172万人)	1166万人 (1380万人)	735万人 (786万人)	714万人 (724万人)	865万人 (583万人)	193万人 (169万人)	415万人 (269万人)
	供給とのミスマッチ	51万人	-49万人	-326万人	214万人	51万人	10万人	-281万人	-24万人	-146万人
	*2021年現在の就業者	143万人	1281万人	196万人	1420万人	834万人	880万人	885万人	244万人	516万人
主な産業の2040年 の労働需要の内訳	製造業	24	206	130	196	52	0.7	642	10	52
	情報通信業	3.9	131	46	43	14	0.3	3.9	0.2	0.8
	卸売業、小売業	25	58	28	186	489	5.8	102	4.3	106
	建設業	19	42	13	84	23	0.6	38	14	5.7
	宿泊業	1.8	6.9	5.6	4.9	3.9	86	1.0	0.3	6.5
	飲食業	2.6	2.8	1.0	7.4	8.7	172	1.9	0.5	12
	運輸業、郵便業	5.8	21	18	68	5.8	2.9	6.4	128	81
	医療・福祉	5.5	450	94	107	1.6	255	6.5	10	14

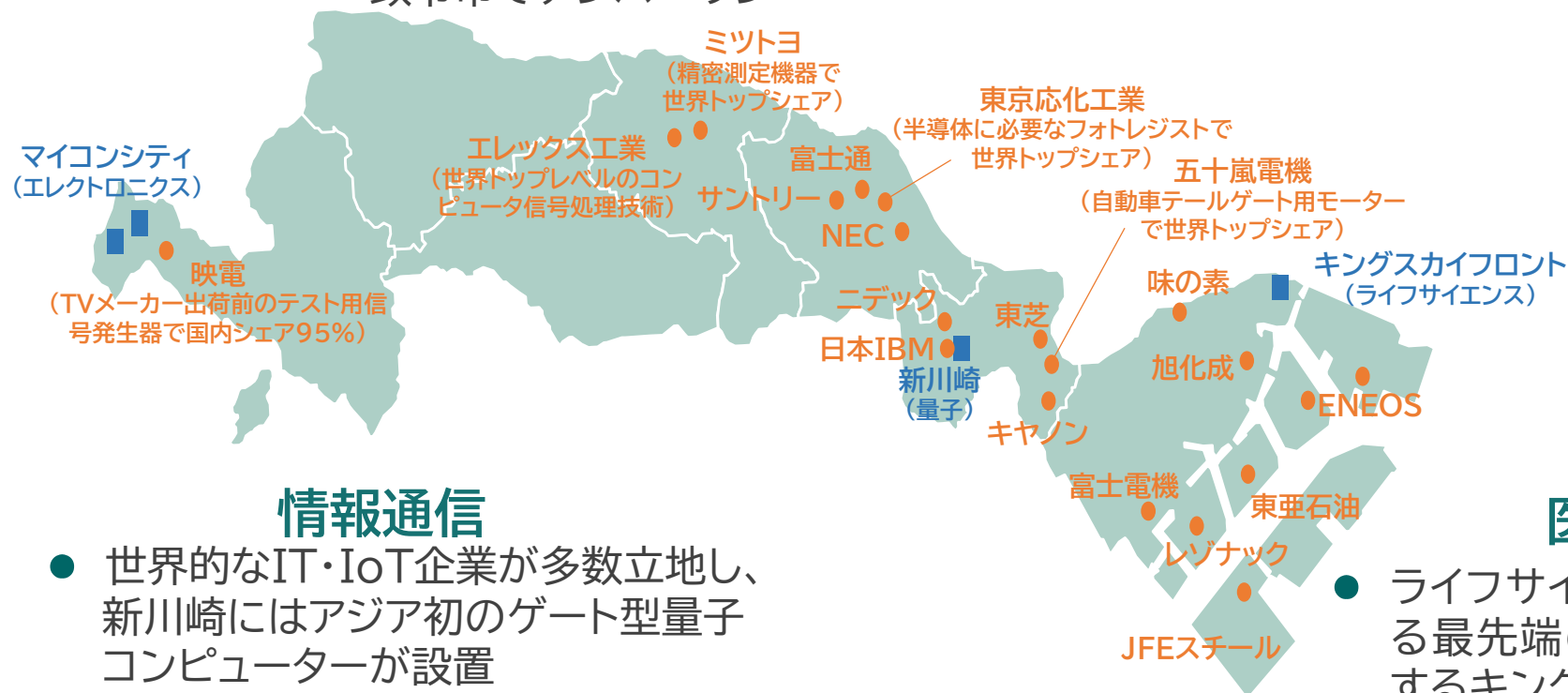
(注) 産業分類は日本標準産業分類、職業分類は日本標準職業分類による。また、表中に含まれていない職業分類があるため、ミスマッチのトータルは0にならない。産業分類・職業分類は主要なもののみ掲載。(単位: 万人) 10

(出所) 2040年の産業構造・就業構造の推計(2025年5月、経済産業省)を一部加工

川崎市の産業特性・施策等と親和性の高い分野

製造

- 我が国を代表する企業の工場・研究所に加え、優れた技術力で国内外でトップシェアを誇る企業が多数立地
- 製造業における1事業所あたりの付加価値額及び1人あたりの付加価値額が政令市でナンバーワン



情報通信

- 世界的なIT・IoT企業が多数立地し、新川崎にはアジア初のゲート型量子コンピューターが設置
- 情報サービス業の従事者割合及び15歳以上就業者に占めるIT人材の割合が政令市でナンバーワン

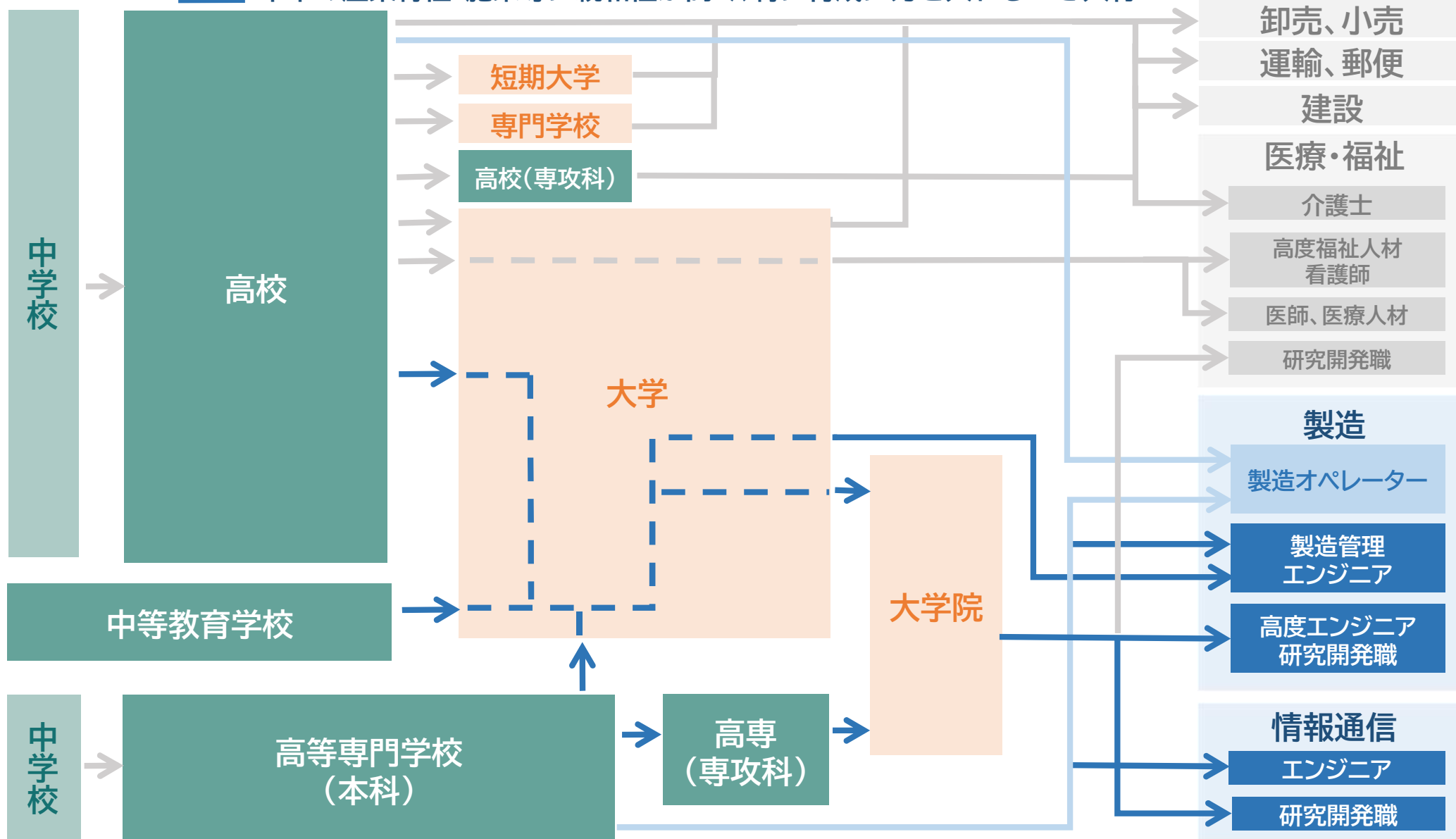
医療・福祉

- ライフサイエンス分野を中心とする最先端の研究開発機関が集積するキングスカイフロント
- 確かな知識と豊かな人間性を兼ね備えた看護人材を養成する川崎市立看護大学

川崎市の特性（産業集積、多様性等）を生かして育成すべき人材像

今後特に人材不足が見込まれる分野・職種へのキャリアパス

—— 本市の産業特性・施策等に親和性が高く、特に育成に力を入れるべき人材



多様なこどもが社会の一員となるための学習機会の保障（セーフティネットとしての市立高等学校）

不登校

市立中学校における不登校児童生徒数が、
10年間で約**1.8倍増加**
(1,003人(H26)⇒1,826人(R6))

外国人

市内外国人住民数・割合は増加傾向、かつ
市立小中学校で日本語指導を必要とする生徒
数は6年間で**2倍以上増加**
(591人(R1)⇒1,345人(R7))

支援を要する児童

市立中学校の通級指導教室利用者数は、
10年間で約**1.2倍増加**(144人(H26)⇒171人(R6))
市立中学校特別支援学級在籍者数は、
10年間で約**1.6倍増加**(612人(H26)⇒1,001人(R6))
市立特別支援学校在籍者数は、
10年間で約**1.3倍増加**(510人(H26)⇒647人(R6))

高等学校

多様なニーズに応じた
学びの提供により
学習機会を保障し、
社会の一員となるための
基本的能力・素養
を身につける

進学・就職等を経て
社会の一員として
地域や産業に貢献

本市が育成すべき人材像

卸売、小売

運輸、郵便

建設

医療・福祉

介護士

高度福祉人材

看護師

医師、医療人材

研究開発職

製造

製造オペレーター

製造管理

エンジニア

高度エンジニア

研究開発職

情報通信

エンジニア

研究開発職

多様な子どもへの
学習機会の保障

社会に変革をもたらすアイデアを生み出したり、そのアイデアの社会実装や既存技術・産業の高度化を担う人材
また、幅広い視野をもって社会の変革をリードし、国内や海外の様々な分野で活躍する人材

基本的な知識と確かな技術をもって、
多様性のある社会の一員として自立しながら、地域や産業を支える人材

高校生年代で与えるべき経験 （子どもたちのニーズ等も含む）

- 産業界と密接に連携し、ものづくりの楽しさを感じながら、新たなアイデアを創造したり、そのアイデアを形にする高度な専門教育
- 生きた英語で学ぶ国際教育プログラム
- 学習内容を実社会へ応用する素養を涵養するための教科横断的な学び
- 仲間と主体的に協力して試行錯誤しながら目標達成に取り組む経験
- 地元企業等との連携やAI等の活用を通じて自ら必要な情報を収集・分析し他者へ分かりやすく伝える能力を育成するSTEAM教育
- 自らの興味・関心を掘り下げる探究的な学び
- 個性に応じた最適な学び
- ニーズに応じた支援を通じた自立した社会生活への歩み

(参考) 高校教育改革に関する基本方針 (グランドデザイン)

～2040年に向けた「N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクール構想」～

(令和8年2月文部科学省公表)

1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップが発生**
(事務職は余剰、**AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足**)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等をし、それが個人の幸福につながり、ひいては、我が国の経済・社会の基盤を強いものとしていくことにつながる**



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

-  **学びの在り方の転換 (New Transformation)**
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、**「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保**し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
 - ✓ **スクール・ミッション、スクール・ポリシー**を踏まえた**教育活動の改善、公表**
 - ✓ **高校教育と一貫した大学教育改革**(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を
支える人材育成

-  **最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence)**
- ✓ **探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実**
→ **理数・文系的素養やAIを使いこなす力**を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感
 - ✓ 各高校の**特色化・魅力化**
→ **学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成**
 - **「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応
した教育機会・アクセスの確保

-  **学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education)**
- ✓ **全国どこにいても多様で質の高い学びを保障**し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
(**地理的アクセスの確保**、都道府県の実情等に応じた**学校配置・規模の適正化**、小規模校を含む**遠隔授業**等の推進)
 - ✓ **通信制高校の教育の質の確保・向上**
 - ✓ **不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実**

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

本市で育成すべき人材像

社会に変革をもたらすアイデアを生み出したり、そのアイデアの社会実装や既存技術・産業の高度化を担う人材
また、幅広い視野をもって社会の変革をリードし、国内や海外の様々な分野で活躍する人材

基本的な知識と確かな技術をもって、多様性のある社会の一員として自立しながら、地域や産業を支える人材

高校生年代で与えるべき経験

- 産業界と密接に連携し、ものづくりの楽しさを感じながら、新たなアイデアを創造したり、そのアイデアを形にする高度な専門教育
 - 生きた英語で学ぶ国際教育プログラム
 - 学習内容を実社会へ応用する素養を涵養するための教科横断的な学び
 - 仲間と主体的に協力して試行錯誤しながら目標達成に取り組む経験
-
- 地元企業等との連携やAI等の活用を通じて自ら必要な情報を収集・分析し他者へ分かりやすく伝える能力を育成するSTEAM教育
 - 自らの興味・関心を掘り下げる探究的な学び
-
- 個性に応じた最適な学び
 - ニーズに応じた支援を通じた自立した社会生活への歩み

今後重視すべき方向性

産業界と密接に連携した実践的で高度かつ専門的な学び

生きた英語で学ぶ国際教育プログラムと、他者と協力して試行錯誤しながら思考を深め、課題解決策を導く探究的な学び

最新の技術を活用しつつ、文理の枠を超えた学際的・複合的な学び

一人一人の個性に合わせた多様な学習機会の提供による柔軟な学び

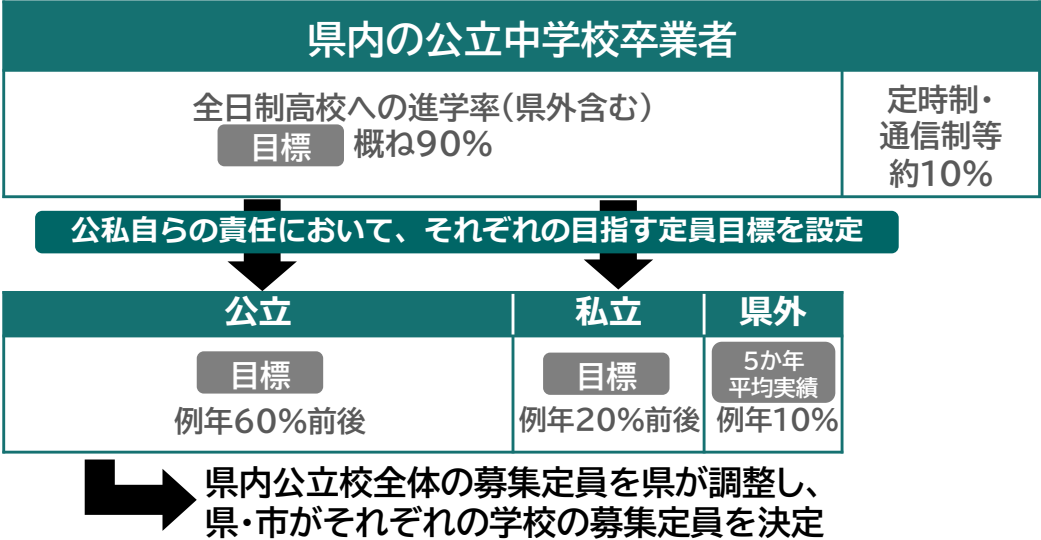
別途議論を進めている高専として具体化

これらの方向性を踏まえ、将来の学校数、学科構成、規模等を今後具現化

(参考) 神奈川県での定員目標設定スキームなど

神奈川県内の高等学校の定員目標の設定スキーム

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律
第4条
都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。この場合において、都道府県は、その区域内の私立の高等学校並びに公立及び私立の中等教育学校の配置状況を十分に考慮しなければならない。



令和6年度市立中学校卒業者の進路状況

進路	R6実績(割合)
市内県立	2,805名(27.9%)
市外国公立	1,656名(16.5%)
県内私立(市外私立含む)	1,634名(16.3%)
県外私立	1,745名(17.4%)
通信制	633名(6.3%)
その他	393名(4.0%)
市立全日制(普通科)	692名(6.9%)
市立全日制(専門学科)	344名(3.4%)
市立定時制	134名(1.3%)
合計	10,036名

市立中学校卒業者のうち、
市立高等学校には約1割が進学

(出所) 年刊教育調査統計資料No.53
(令和8(2026)年3月、川崎市教育委員会)を基に作成

(参考)市内高等学校での令和8年度入試の募集定員

	募集定員	割合
県立高等学校	3,965人	61.7%
全日制	3,895人	
定時制	70人	
私立高等学校	890人	13.8%
市立高等学校	1,572人	24.4%
全日制	1,222人	
定時制	350人	
合計	6,427人	100%

(出所) 公立高等学校は、令和8年度神奈川県公立高等学校生徒募集定員数(神奈川県教育委員会)、私立高等学校は、各校ホームページを基に作成
※附属中学校からの内部進学のための川崎高等学校全日制課程普通科についても、市立高等学校全日制に含めている。

(参考) 川崎市内の県立・私立高等学校

青:県立・橙:私立

設置学科:高等学校でのR8募集定員
当該高等学校の主な特色

カリタス女子

普通科:0人
連携型中高一貫の女子校で英仏
復言語教育等のグローバル教育

洗足学園

普通科:0人
連携型中高一貫の女子校で
英語学習や探究学習を充実

大西学園

普通科:120人、家庭科:40人
普通科は希望進路でクラス分け
家庭科は食物教育や被服教育を実施

県立菅

普通科:299人
インクルーシブ教育実践推進校

県立生田東

普通科:318人
ICT利活用授業研究推進校
通級指導導入校

県立多摩

普通科:279人
学力向上進学重点校

県立向の岡工業

機械科:78人、電気科:78人
建設科:78人、定時制:70人
ものづくり教育で約7割が就職

日本女子大附属

普通科:約130人
幼稚園から大学まで併設する女子校

県立新城

普通科:278人
海外帰国生徒を10人受入

県立住吉

普通科:358人
プログラミング教育研究推進校

県立麻生

普通科:318人
横浜薬科大学と連携

県立川崎工科

総合技術科:238人
2年次に機械、情報、環境、
食品系の6コースから選択

県立百合丘

普通科:358人
人権・国際教育を実施

県立川崎北

普通科:299人
インクルーシブ教育実践推進校

県立大師

単位制普通科:225人
在県外国人等を13人受入

県立生田

普通科:358人
R6文科省DXハイスクール採択

法政大学第二

普通科:男子200人、女子200人
中学校から大学まで併設

県立川崎

単位制普通科:240人
定時制(単位制):70人
在県外国人等を13人、中途退学者を5人受入
フレキシブルスクール

桐光学園

普通科:男子140人、女子60人
帰国生入試を別途実施
男女別学で、併設型中高一貫校

※R7に川崎総合科学と橘でも採択

05 今後の進め方

STEP-0 市立高等学校の現状と取り巻く環境変化の整理

STEP-1 本市で育成すべき人材像及び高校生年代で与えるべき経験

STEP-2 今後重視すべき方向性

今回の報告内容

STEP-3 今後重視すべき方向性を具体化する将来的な学校像

⇒ STEP-2を具体化する将来的な学校配置や規模について、既存5校の活用方針も含めて、今後の方向性を定める

STEP-4 将来的な学校像の具体化に向けた取組方針

⇒ STEP-3の具体化に向け、各学校で取り組むべき内容や取組行程を示す

(仮称)新たな市立高等学校等改革基本計画

令和8(2026)年 8月 検討状況の報告(2回目)

11月 素案公表・パブリックコメント手続の実施

令和9(2027)年 3月 策定

(参考) 探究的な学びの更なる充実に向けた試行的な取組

- かわさき教育プランでは、Key Project(重点的に取り組む重要テーマ)として「探究的な学びの充実」が位置付けられている。
- 探究的な学びの更なる充実に向け、探究の過程から市内企業等と通年で連携し、実社会との結びつきの中で学びの深化を図る取組を、令和8年度から試行的に実施する。

かわさき教育プラン

Key Project1 社会参画に向けた資質・能力を育成する探究的な学びの充実

高等学校での取組

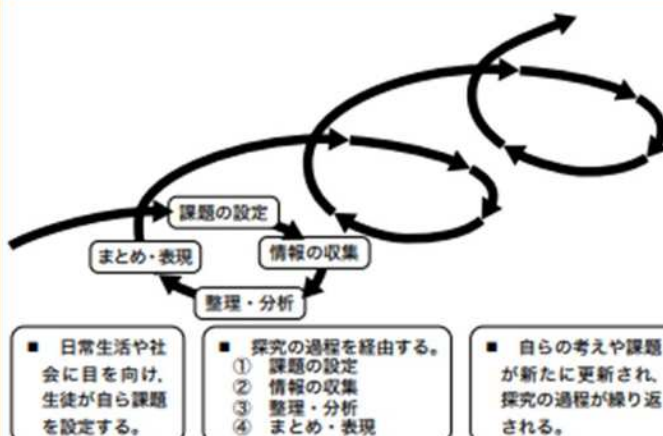
小中学校段階で行ってきた探究的な学習プロセスをさらに発展・高度化し、自分で課題を立てた上で、地域(企業等)とも連携しながら、他教科と関連付けて知識を深める教科横断的な学びや情報を収集・整理・分析するプロセスを、将来において活用できる能力として身に付けられるよう探究学習を進めます。

学習指導要領で定める総合的な探究の時間

目標

- ①探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- ②実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

探究における生徒の学習の姿



現実には・・・

学校のみで実施する場合、探究の過程で生徒が直面する課題に教員が自らの能力・専門性の中で対応しなければならず、生徒がそれぞれ設定する多様なテーマ内容を教員が理解・支援するために多くの時間と労力が必要になり、生徒の深い学びにつながりにくくなる可能性がある。

市内企業等と通年で連携し、探究の過程から外部視点を入れた探究的な学びを試行実施